報道発表資料

東京消防庁　Tokyo Fire Department

平成３０年１月１９日

平成２９年「消防に関する世論調査」を実施

東京消防庁では、東京消防庁管内に居住する３，０００人を対象に「平成２９年消防に関する世論調査」を実施しました（１，６４４人が回答）。
今後、本調査結果をもとに、各種施策を検討してまいります。

１　調査結果の特徴について

別紙１「平成２９年『消防に関する世論調査』結果の特徴」をご参照ください。

２　意識調査の結果について

別紙２「平成２９年『消防に関する世論調査』結果概要」をご参照ください。

問合せ先

東京消防庁㈹　電話　3212－2111
広報課報道係　内線　2345～2349
広報課都民の声係　内線　2322　2325

別紙１

平成２９年『消防に関する世論調査』結果の特徴

- **『消防行政に対する満足度』**については、「火災などの災害における活動に関すること」について「満足」（「やや満足」を含む。）と回答した方が５８．１％で、「救急業務に関すること」について「満足」（「やや満足」を含む。）と回答した方が６３．９％でした。

- 家庭内で、**『家具類の転倒・落下・移動防止対策』**を全部又は一部実施している人は、６５．６％、実施していない人が２５．１％、倒れる可能性のある家具類がない又は家具を置いていない人が７．８％でした。今後発生が危惧されている大地震に備え、未実施率の低下に重点を置いた普及啓発を図ってまいります。

- **『＃７１１９』**（「東京消防庁救急相談センター」及び「東京版救急受診ガイド」）を知っているかについては、「知っている」が５２．０％で、「知らない」が４６．５％でした。

- **『災害時支援ボランティア』**に登録し「活動したい」と回答した方は２９．０％おり、その方々に震災時などにできると思う活動をたずねたところ、「消防署における、給食支援活動」が５２．２％、「救助・救出活動への協力」が４５．２％、「けが人に対する応急手当」が３８．６％、「避難者・帰宅困難者に対する道案内」が３８．４％でした。災害時支援ボランティアの活動には、災害現場での消防隊の活動支援の他、消防署内での後方支援活動など多岐に渡ることから、活動内容を広く広報し、登録の促進を図ってまいります。

- **『優良防火対象物認定証』**を知っているかについては、「知っている」が３１．１％、「知らない」が６８．０％で、**『違反対象物公表制度』**については、「知っている」が１３．２％、「知らない」が８５．７％でした。東京２０２０大会を控え、優良防火対象物認定制度や違反対象物公表制度の周知促進を図ってまいります。

- **『住宅用火災警報器の設置状況』**は、「設置が義務付けられている場所（全ての居室、台所、階段）全てに設置している」が５６．０％、「義務付けられている場所の一部にしか設置していない」が２９．５％でした。住宅火災による被害低減を図るため、未設置世帯又は一部設置世帯に対し、火災予防条例どおりの設置を促進するとともに、定期的な作動確認などの適正な維持管理について周知してまいります。

別紙２

平成２９年「消防に関する世論調査」結果概要

１　実施時期及び調査対象

今回の世論調査は、９月６日から１６日間、当庁管内に住む１８歳以上の男女３，０００人を対象に、調査票を送付し、郵送回収及びインターネット回答方式で実施した。回答は１，６４４人から寄せられ、回収率は５４．８％であった。

２　標本抽出方法（層化二段無作為抽出法）

⑴　第１段階：調査地点の抽出

管内を下表のように 12 の地域に分け、それぞれの人口に応じ、全 250 地点（町丁目）を比例配分した。各地域内の調査地点は等間隔抽出法により決定した。

12 地域	区市町村
①都心地域	千代田区　中央区　港区
②山手地域	新宿区　文京区　渋谷区　豊島区
③下町地域	台東区　墨田区　江東区　荒川区
④東部地域	足立区　葛飾区　江戸川区
⑤西部地域	練馬区　中野区　杉並区　世田谷区　目黒区
⑥南部地域	大田区　品川区
⑦北部地域	北区　板橋区
⑧西多摩地域	青梅市　福生市　羽村市　あきる野市　瑞穂町　日の出町　檜原村　奥多摩町
⑨南多摩地域	八王子市　町田市　日野市　多摩市
⑩北多摩西部地域	立川市　昭島市　国分寺市　国立市　東大和市　武蔵村山市
⑪北多摩北部地域	小平市　東村山市　清瀬市　東久留米市　西東京市
⑫北多摩南部地域	武蔵野市　三鷹市　府中市　調布市　小金井市　狛江市

⑵　第２段階：調査対象者の抽出

該当する調査地点の区市町村の住民基本台帳から、１地点につき 12 人を等間隔で抽出した。

⑶　地域別回収状況

	配布数	回収数	回収率（%）
①都心地域	96	49	51.0
②山手地域	228	115	50.4
③下町地域	264	160	60.6
④東部地域	396	221	55.8
⑤西部地域	648	359	55.4
⑥南部地域	252	131	52.0

⑦北部地域	192	103	53.6
⑧西多摩地域	96	56	58.3
⑨南多摩地域	300	165	55.0
⑩北多摩西部地域	132	75	56.8
⑪北多摩北部地域	168	97	57.7
⑫北多摩南部地域	228	113	49.6
計	3,000	1,644	54.8

3　回答者属性

⑴　居住地

居住地	人数	割合(%)	居住地	人数	割合(%)
①都心地域	49	3.0	⑦北部地域	103	6.3
②山手地域	115	7.0	⑧西多摩地域	56	3.4
③下町地域	160	9.7	⑨南多摩地域	165	10.0
④東部地域	221	13.4	⑩北多摩西部地域	75	4.6
⑤西部地域	359	21.8	⑪北多摩北部地域	97	5.9
⑥南部地域	131	8.0	⑫北多摩南部地域	113	6.9

⑵　性別

性別	人数	割合(%)
男性	708	43.1
女性	936	56.9

⑶　年齢

年齢	人数	割合(%)	年齢	人数	割合(%)
10代	5	0.3	50代	366	22.3
20代	138	8.4	60代	316	19.2
30代	241	14.7	70歳以上	184	11.2
40代	394	24.0			

⑷　職業

職業	人数	割合(%)	職業	人数	割合(%)
自営業主	156	9.5	学生	38	2.3
家族従業(家業手伝い)	49	3.0	その他の無職	93	5.7
勤め(フルタイム)	681	41.4	その他	46	2.8
勤め(パートタイム)	249	15.1	無回答	26	1.6
無職の主婦・主夫	306	18.6			

⑸　世帯構成（自身若しくは同居人）

世帯構成	人数	割合(%)
6 歳以下の乳幼児	214	13.5
65 歳以上の方	630	39.8
病気などで寝たきりの方	13	0.8
身体の不自由な方	114	7.2
いずれもいない	733	46.3

⑹　住居形態

住居形態	人数	割合(%)
一戸建て	1,153	70.1
マンション・アパート	448	27.3
社宅・公務員住宅・寮・寄宿舎など	21	1.3
無回答	22	1.3

⑺　建物構造

建物構造	人数	割合(%)	建物構造	人数	割合(%)
耐火造	726	44.2	無回答	44	2.7
耐火造以外	874	53.2			

⑻　所有区分

所有区分	人数	割合(%)	所有区分	人数	割合(%)
持家（家族所有含む）	1,346	81.9	無回答	24	1.5
賃貸	274	16.7			

4　集計結果

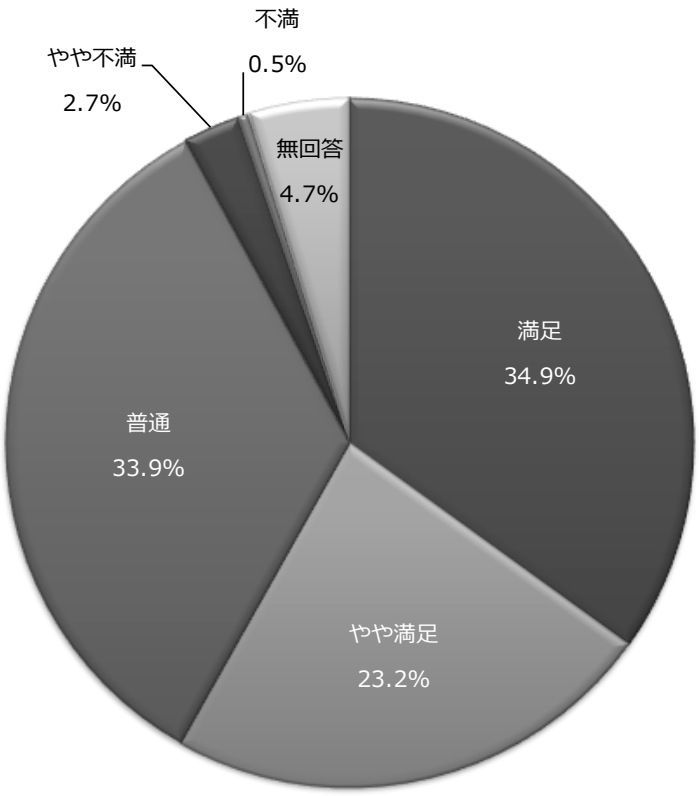
（1）　消防行政に対する満足度

Q１　東京消防庁では、都民のみなさまの安全と安心を守れるよう、充実した消防の行政サービスを進めています。下記ＡからＤの分野について、あてはまるものを、それぞれ１つずつ選び、また、そのように回答した理由を下欄からいくつでも選んでください。

Ａ　火災などの災害における活動に関すること

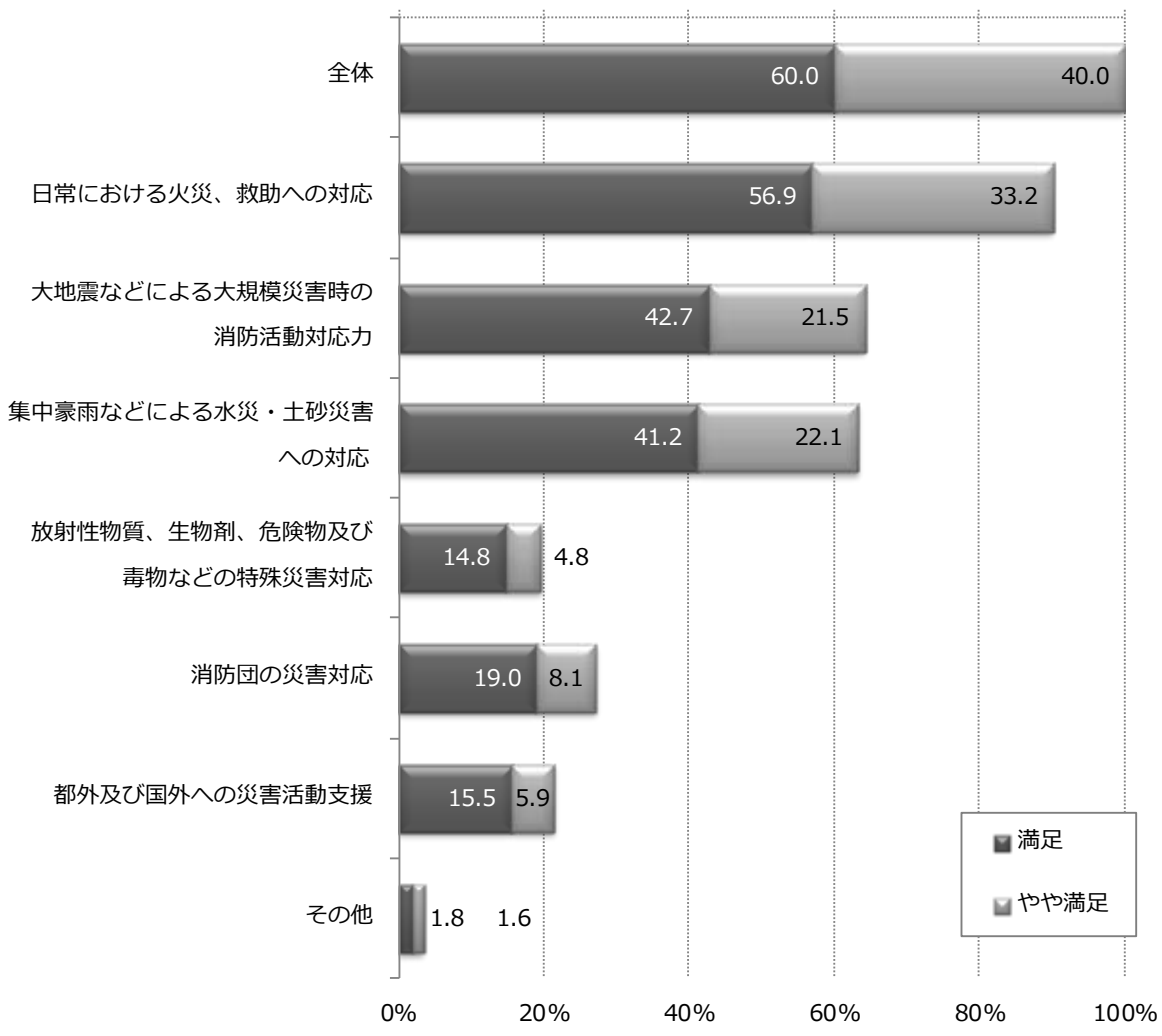
【満足度】

	件　数	割合(%)
満足	573	34.9
やや満足	382	23.2
普通	557	33.9
やや不満	45	2.7
不満	9	0.5
無回答	78	4.7
全　　体	1,644	100.0



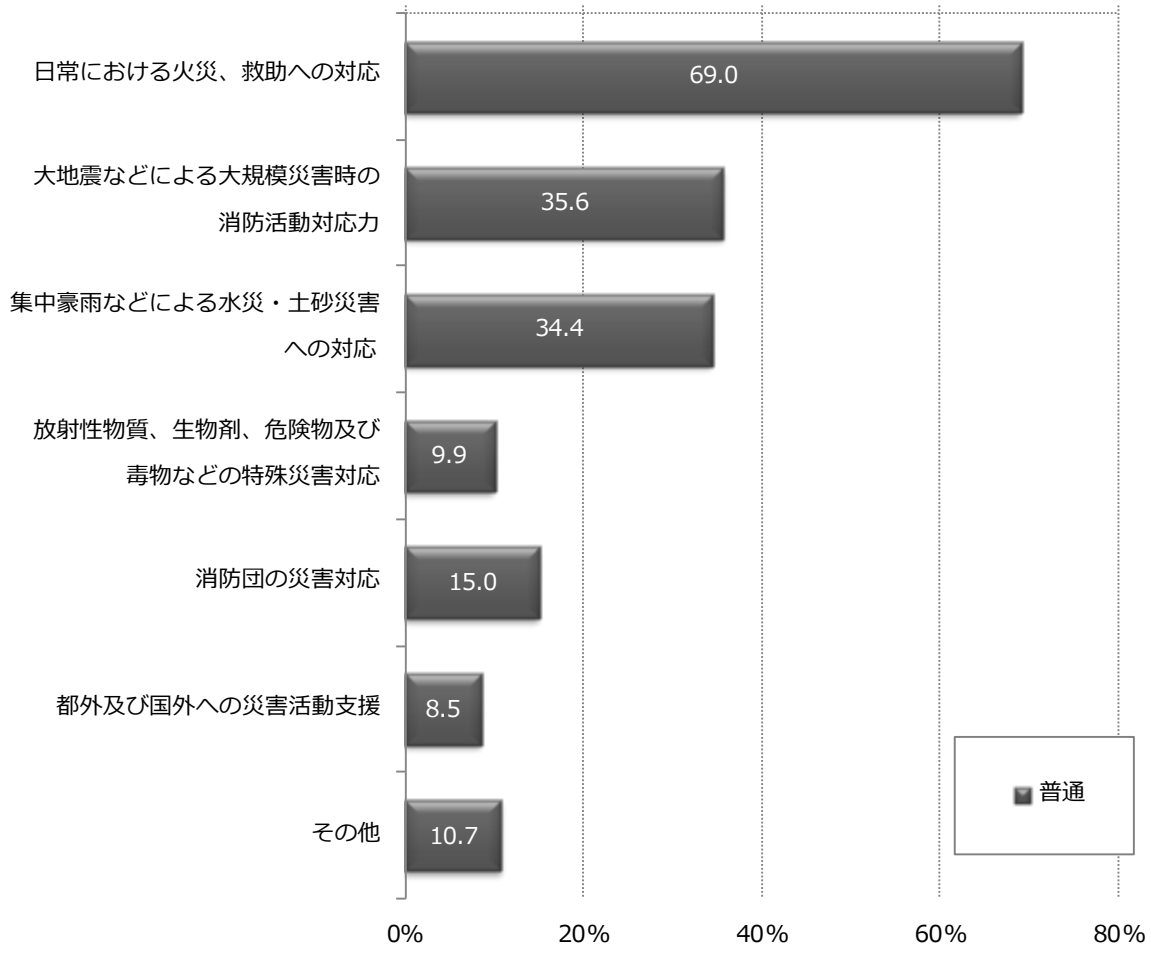
【満足と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)	満足		やや満足	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
日常における火災、救助への対応	847	90.1	535	56.9	312	33.2
大地震などによる大規模災害時の消防活動対応力	603	64.1	401	42.7	202	21.5
集中豪雨などによる水災・土砂災害への対応	595	63.3	387	41.2	208	22.1
放射性物質、生物剤、危険物及び毒物などの特殊災害対応	184	19.6	139	14.8	45	4.8
消防団の災害対応	255	27.1	179	19.0	76	8.1
都外及び国外への災害活動支援	201	21.4	146	15.5	55	5.9
その他	32	3.4	17	1.8	15	1.6
全　　体	940	100.0	564	60.0	376	40.0



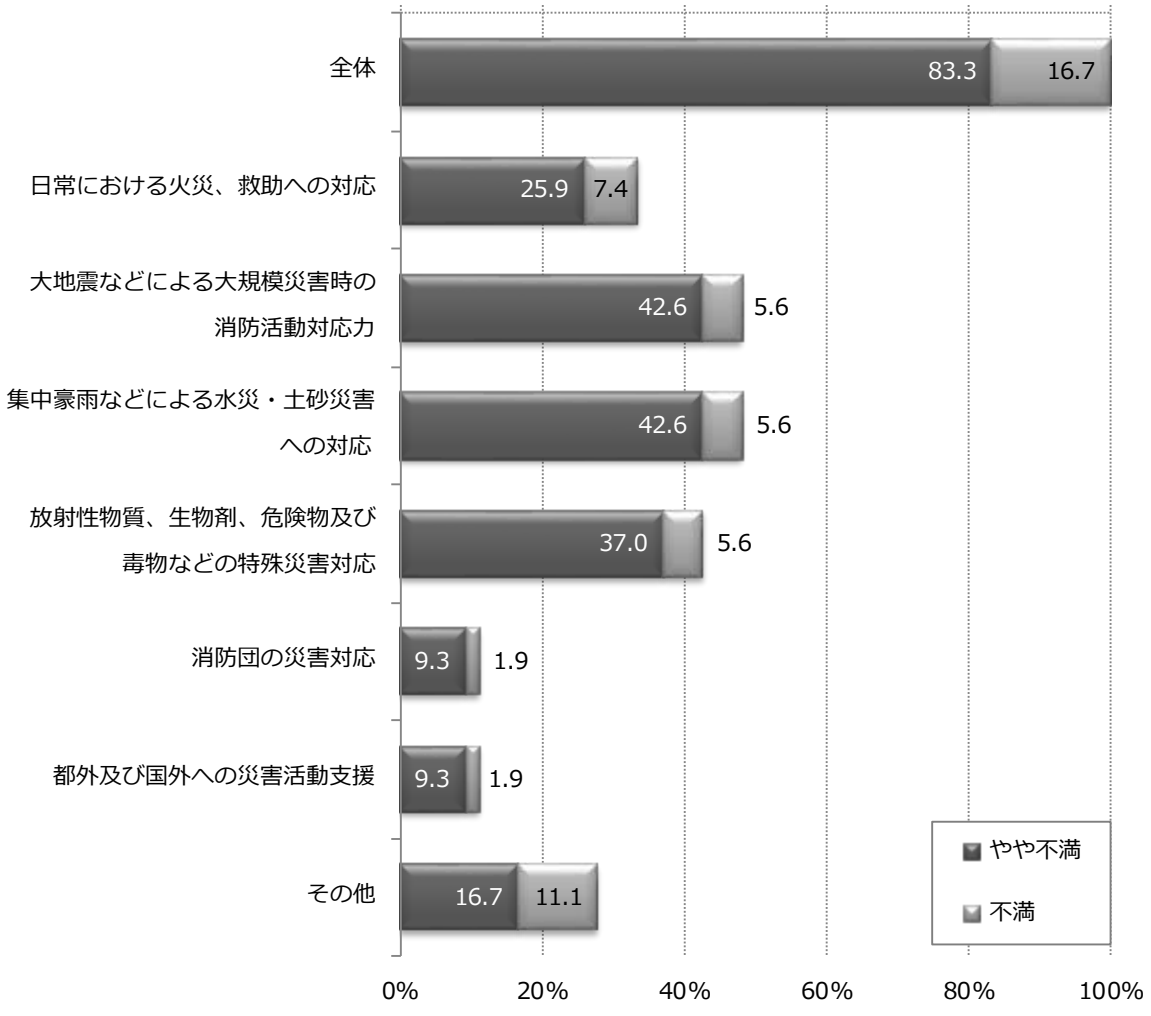
【普通と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)
日常における火災、救助への対応	341	69.0
大地震などによる大規模災害時の消防活動対応力	176	35.6
集中豪雨などによる水災・土砂災害への対応	170	34.4
放射性物質、生物剤、危険物及び毒物などの特殊災害対応	49	9.9
消防団の災害対応	74	15.0
都外及び国外への災害活動支援	42	8.5
その他	53	10.7
全　　体	494	100.0



【不満と回答した方の理由】

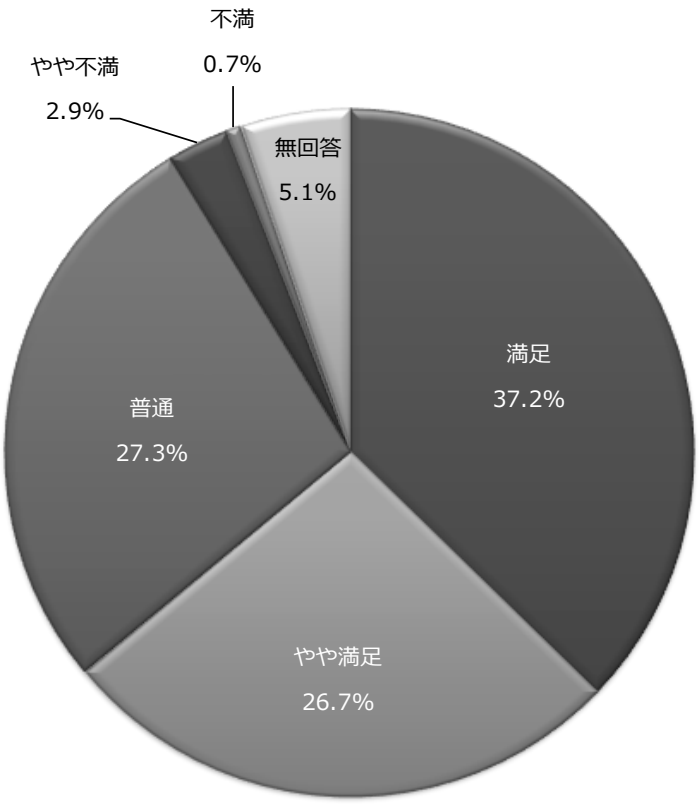
	件　数	割合(%)	やや不満		不満	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
日常における火災、救助への対応	18	33.3	14	25.9	4	7.4
大地震などによる大規模災害時の消防活動対応力	26	48.1	23	42.6	3	5.6
集中豪雨などによる水災・土砂災害への対応	26	48.1	23	42.6	3	5.6
放射性物質、生物剤、危険物及び毒物などの特殊災害対応	23	42.6	20	37.0	3	5.6
消防団の災害対応	6	11.1	5	9.3	1	1.9
都外及び国外への災害活動支援	6	11.1	5	9.3	1	1.9
その他	15	27.8	9	16.7	6	11.1
全　　体	54	100.0	45	83.3	9	16.7



B　救急業務に関すること

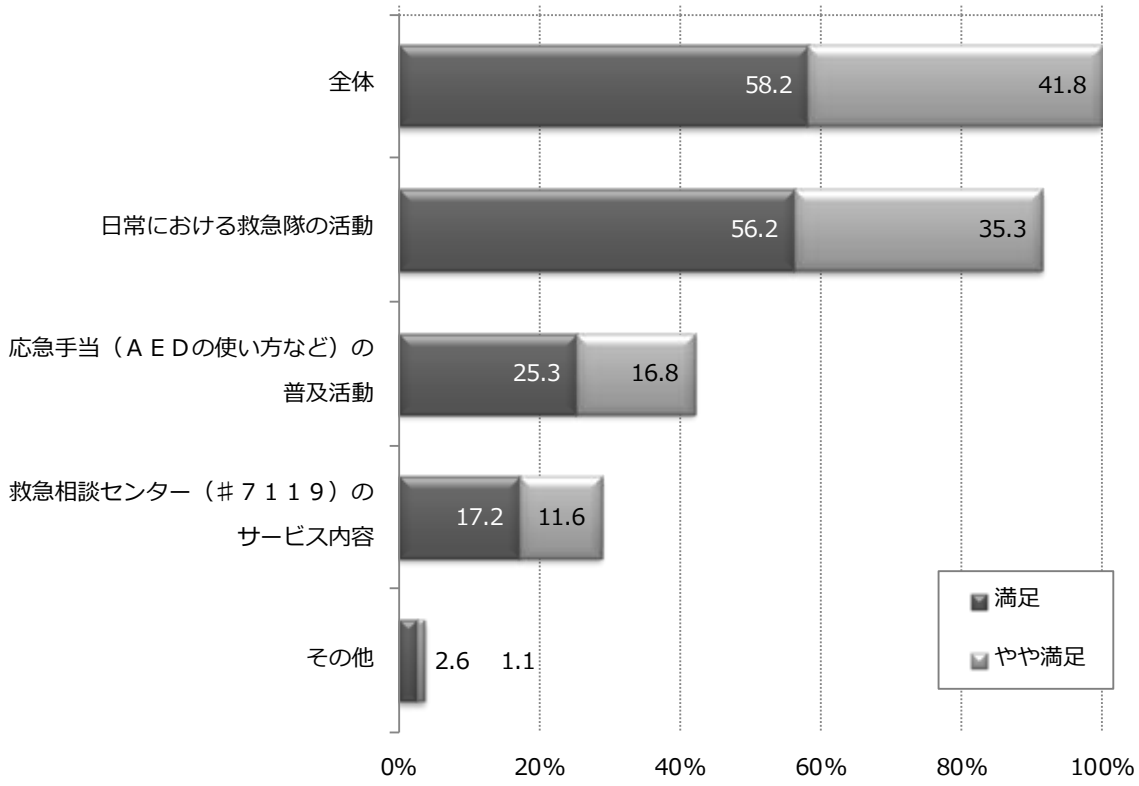
【満足度】

	件　数	割合(%)
満足	612	37.2
やや満足	439	26.7
普通	449	27.3
やや不満	48	2.9
不満	12	0.7
無回答	84	5.1
全　　体	1,644	100.0



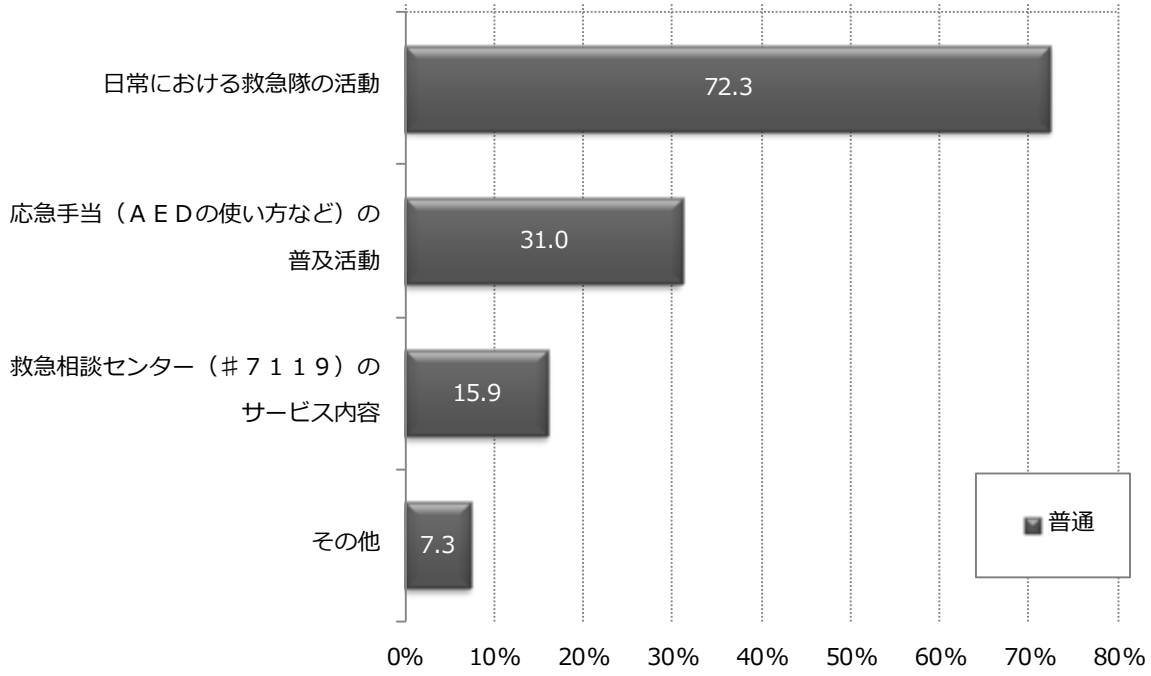
【満足と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)	満足		やや満足	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
日常における救急隊の活動	944	91.5	580	56.2	364	35.3
応急手当（ＡＥＤの使い方など）の普及活動	434	42.1	261	25.3	173	16.8
救急相談センター（＃７１１９）のサービス内容	297	28.8	177	17.2	120	11.6
その他	38	3.7	27	2.6	11	1.1
全　　体	1032	100.0	601	58.2	431	41.8



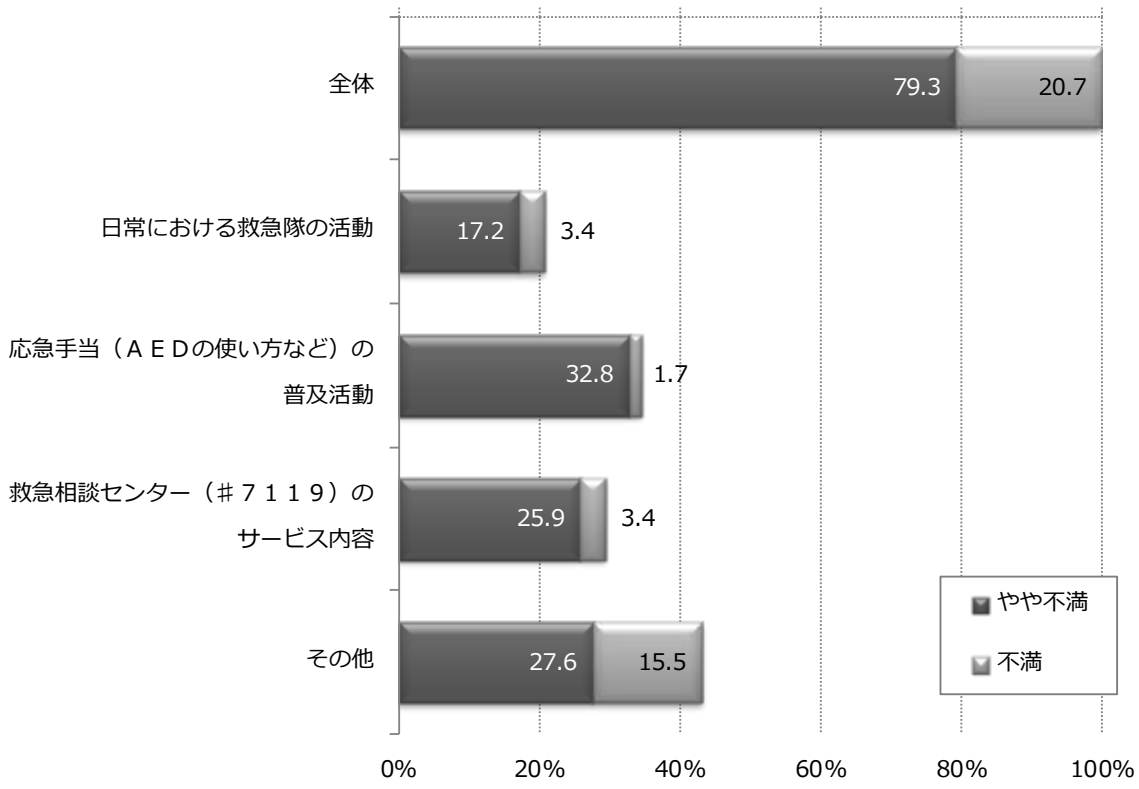
【普通と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)
日常における救急隊の活動	287	72.3
応急手当（ＡＥＤの使い方など）の普及活動	123	31.0
救急相談センター（＃７１１９）のサービス内容	63	15.9
その他	29	7.3
全　　体	397	100.0



【不満と回答した方の理由】

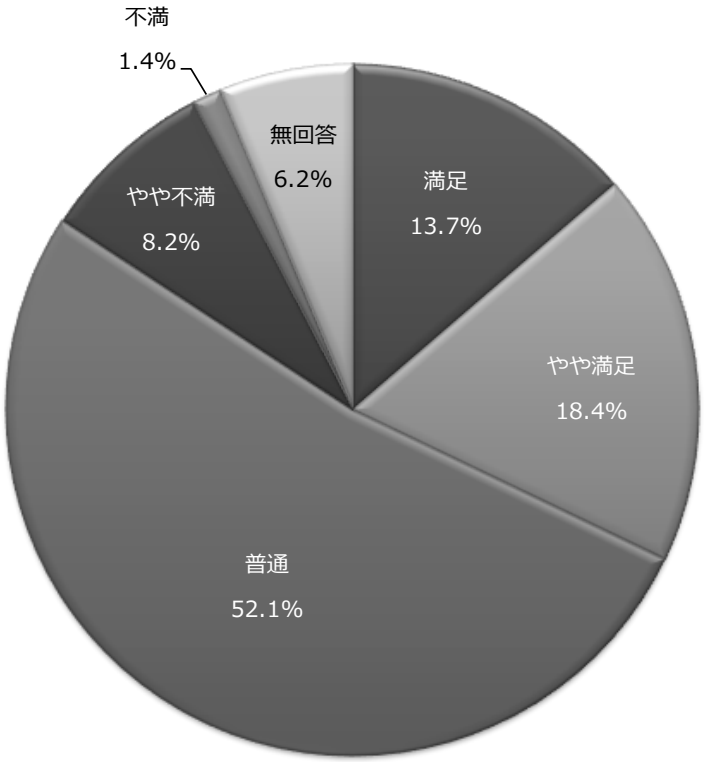
	件　数	割合(%)	やや不満		不満	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
日常における救急隊の活動	12	20.7	10	17.2	2	3.4
応急手当（ＡＥＤの使い方など）の普及活動	20	34.5	19	32.8	1	1.7
救急相談センター（＃７１１９）のサービス内容	17	29.3	15	25.9	2	3.4
その他	25	43.1	16	27.6	9	15.5
全　　体	58	100.0	46	79.3	12	20.7



C　都民のみなさまの防災行動力向上に関すること

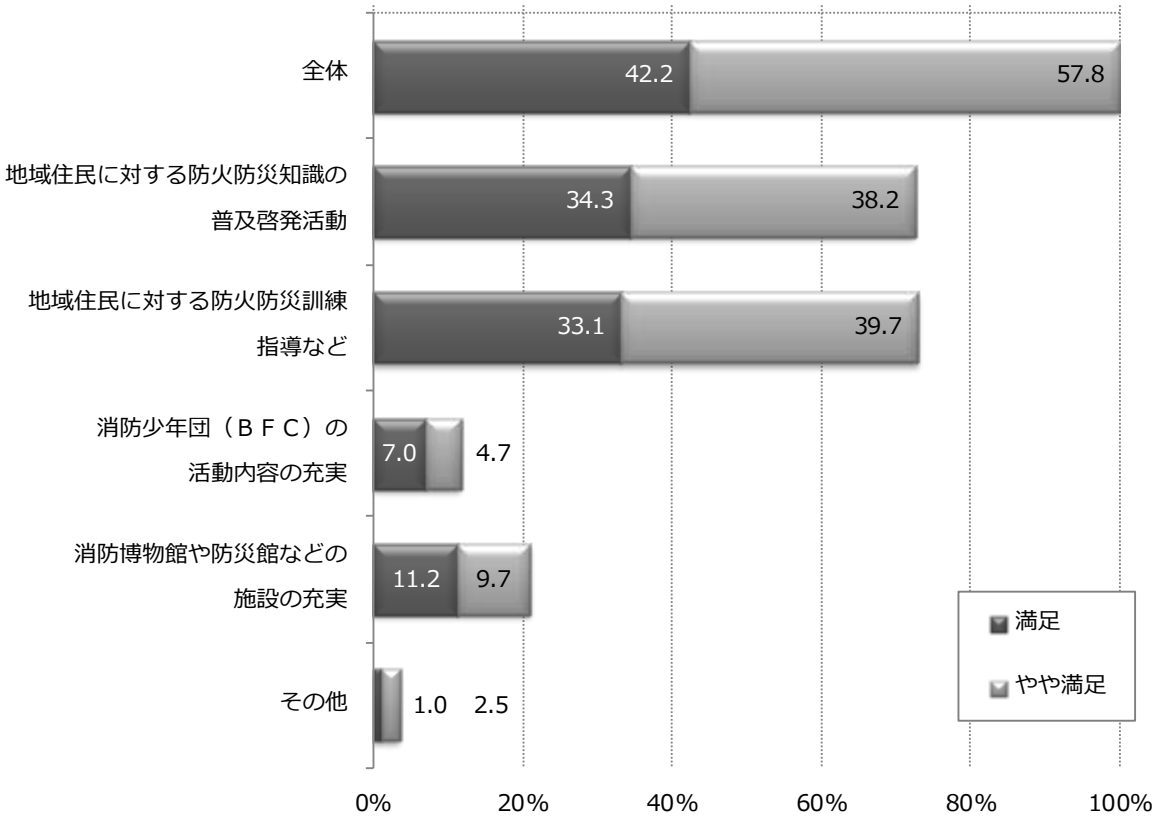
【満足度】

	件　数	割合(%)
満足	225	13.7
やや満足	303	18.4
普通	856	52.1
やや不満	135	8.2
不満	23	1.4
無回答	102	6.2
全　　体	1,644	100.0



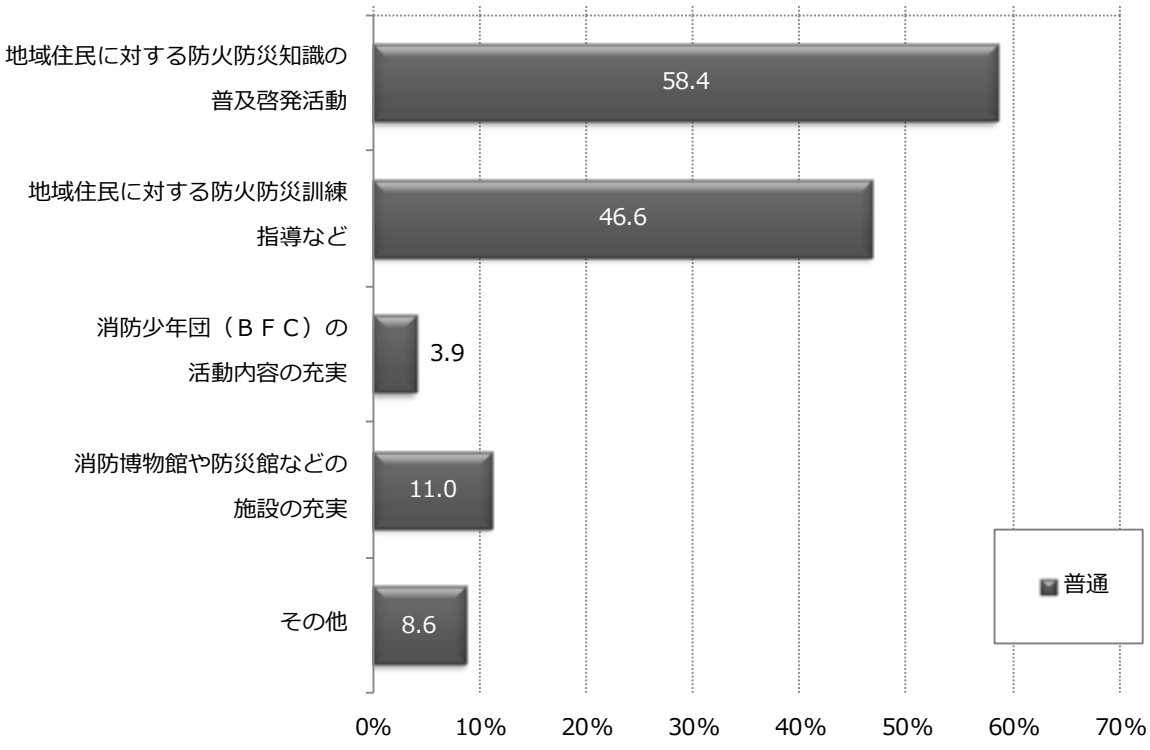
【満足と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)	満足		やや満足	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
地域住民に対する防火防災知識の普及啓発活動	374	72.5	177	34.3	197	38.2
地域住民に対する防火防災訓練指導など	376	72.9	171	33.1	205	39.7
消防少年団（ＢＦＣ）の活動内容の充実	60	11.6	36	7.0	24	4.7
消防博物館や防災館などの施設の充実	108	20.9	58	11.2	50	9.7
その他	18	3.5	5	1.0	13	2.5
全　　体	516	100.0	218	42.2	298	57.8



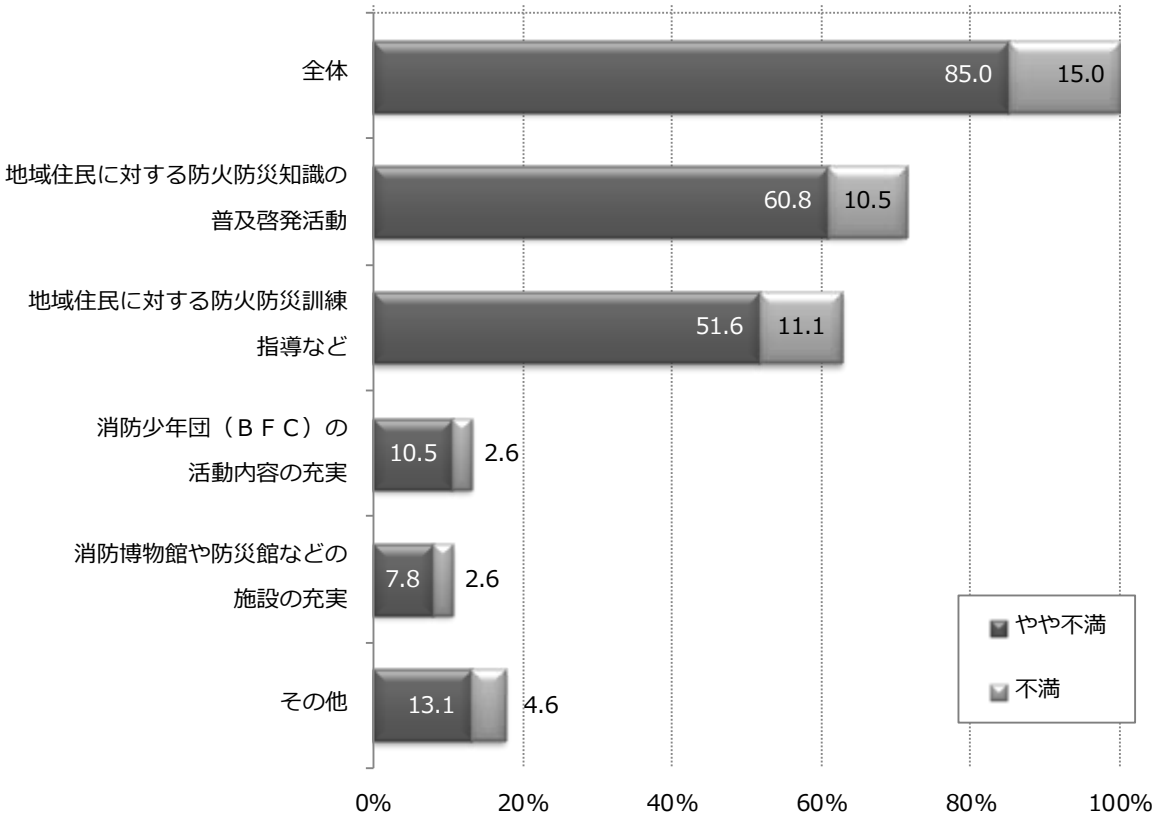
【普通と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)
地域住民に対する防火防災知識の普及啓発活動	436	58.4
地域住民に対する防火防災訓練指導など	348	46.6
消防少年団（ＢＦＣ）の活動内容の充実	29	3.9
消防博物館や防災館などの施設の充実	82	11.0
その他	64	8.6
全　　体	746	100.0



【不満と回答した方の理由】

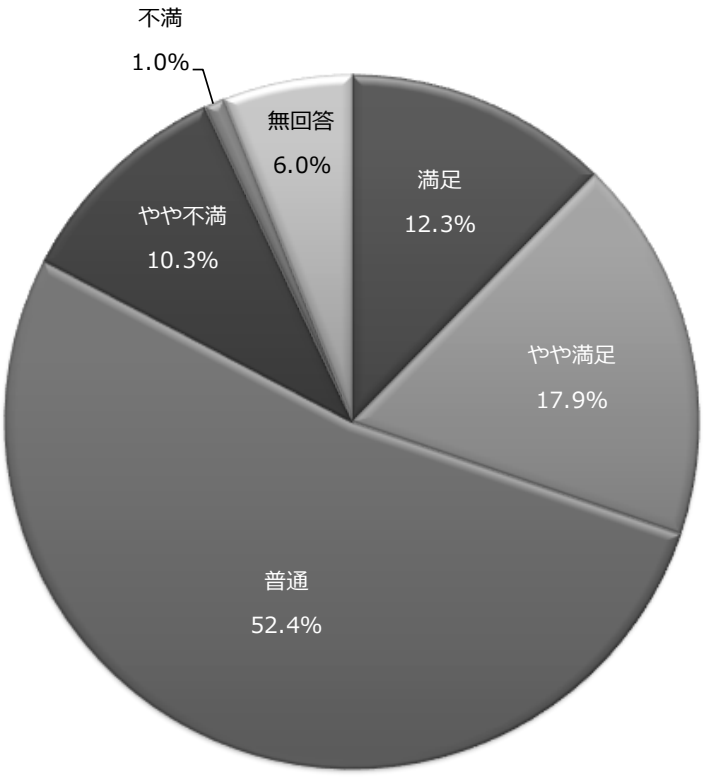
	件　数	割合(%)	やや不満		不満	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
地域住民に対する防火防災知識の普及啓発活動	109	71.2	93	60.8	16	10.5
地域住民に対する防火防災訓練指導など	96	62.7	79	51.6	17	11.1
消防少年団（ＢＦＣ）の活動内容の充実	20	13.1	16	10.5	4	2.6
消防博物館や防災館などの施設の充実	16	10.5	12	7.8	4	2.6
その他	27	17.6	20	13.1	7	4.6
全　　体	153	100.0	130	85.0	23	15.0



D　火災予防に関すること

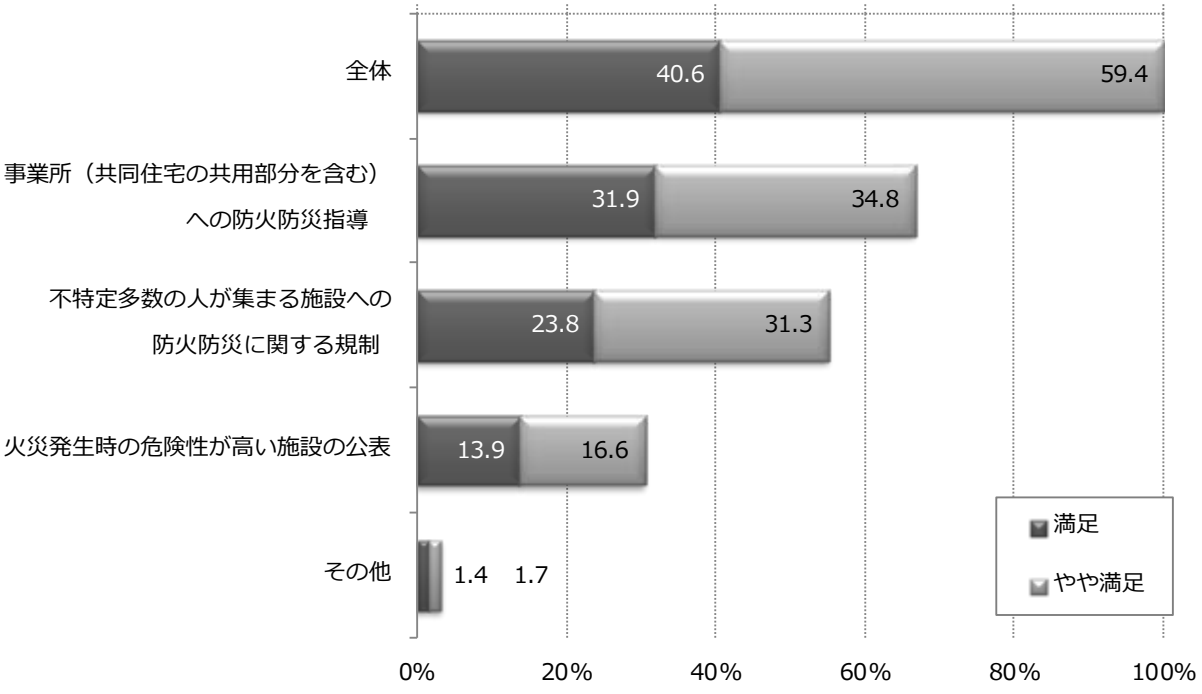
【満足度】

	件　数	割合(%)
満足	203	12.3
やや満足	294	17.9
普通	862	52.4
やや不満	170	10.3
不満	16	1.0
無回答	99	6.0
全　　体	1,644	100.0



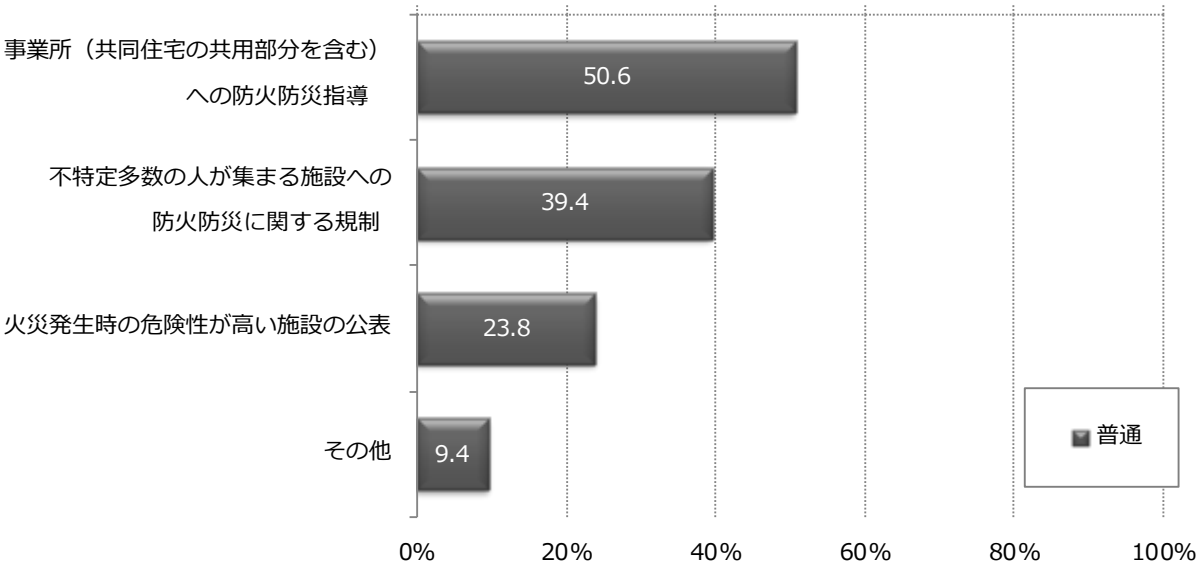
【満足と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)	満足		やや満足	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
事業所（共同住宅の共用部分を含む）への防火防災指導	322	66.7	154	31.9	168	34.8
不特定多数の人が集まる施設への防火防災に関する規制	266	55.1	115	23.8	151	31.3
火災発生時の危険性が高い施設の公表	147	30.4	67	13.9	80	16.6
その他	15	3.1	7	1.4	8	1.7
全　　体	483	100.0	196	40.6	287	59.4



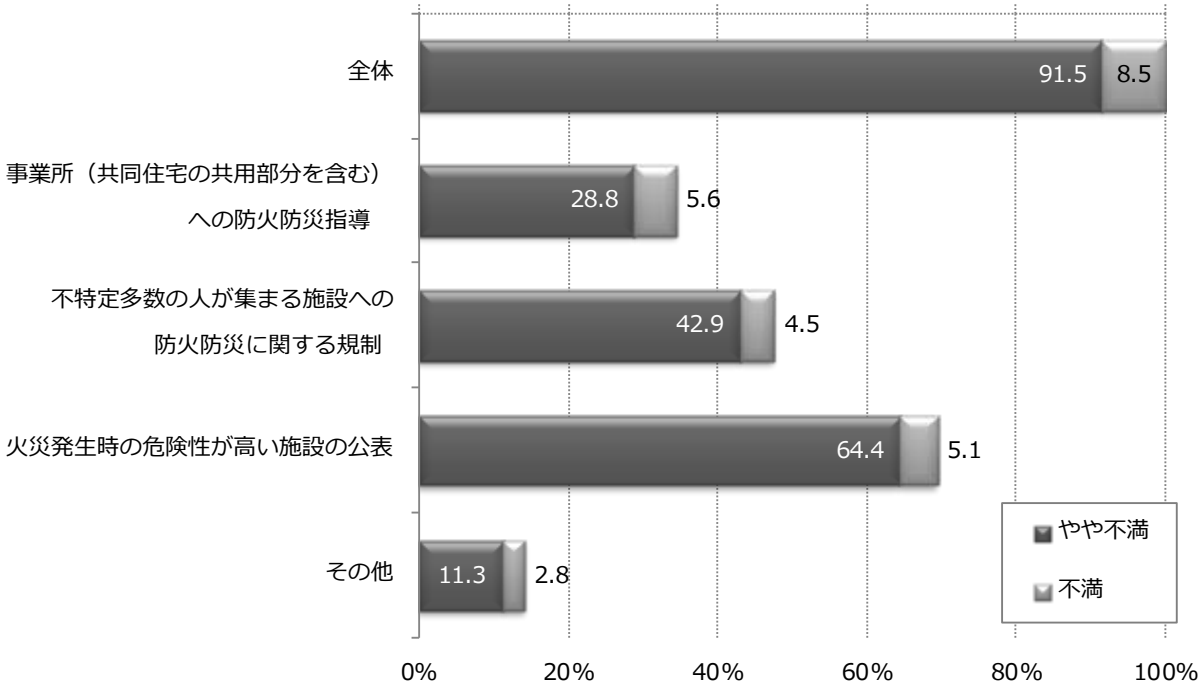
【普通と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)
事業所（共同住宅の共用部分を含む）への防火防災指導	370	50.6
不特定多数の人が集まる施設への防火防災に関する規制	288	39.4
火災発生時の危険性が高い施設の公表	174	23.8
その他	69	9.4
全　　体	731	100.0



【不満と回答した方の理由】

	件　数	割合(%)	やや不満		不満	
			件　数	割合(%)	件　数	割合(%)
事業所（共同住宅の共用部分を含む）への防火防災指導	61	34.5	51	28.8	10	5.6
不特定多数の人が集まる施設への防火防災に関する規制	84	47.5	76	42.9	8	4.5
火災発生時の危険性が高い施設の公表	123	69.5	114	64.4	9	5.1
その他	25	14.1	20	11.3	5	2.8
全　　体	177	100.0	162	91.5	15	8.5

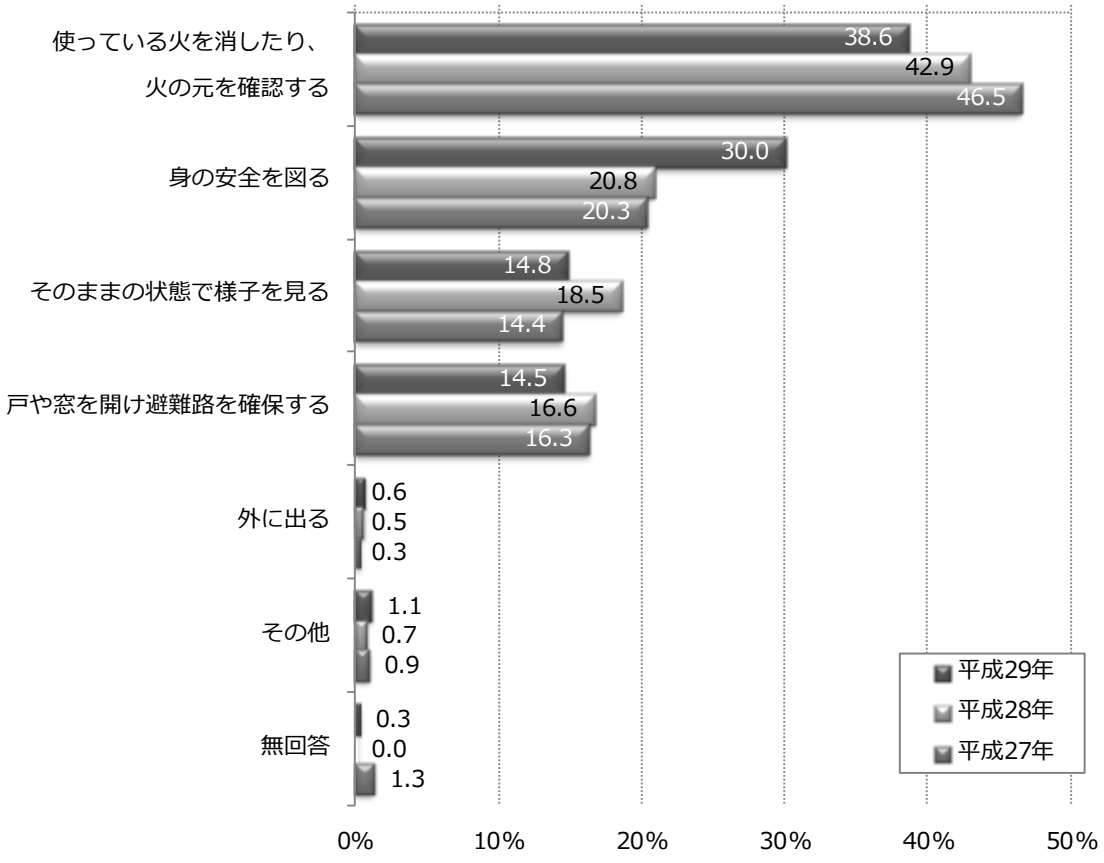


（2） 地震に関すること

■大地震発生時の行動等について

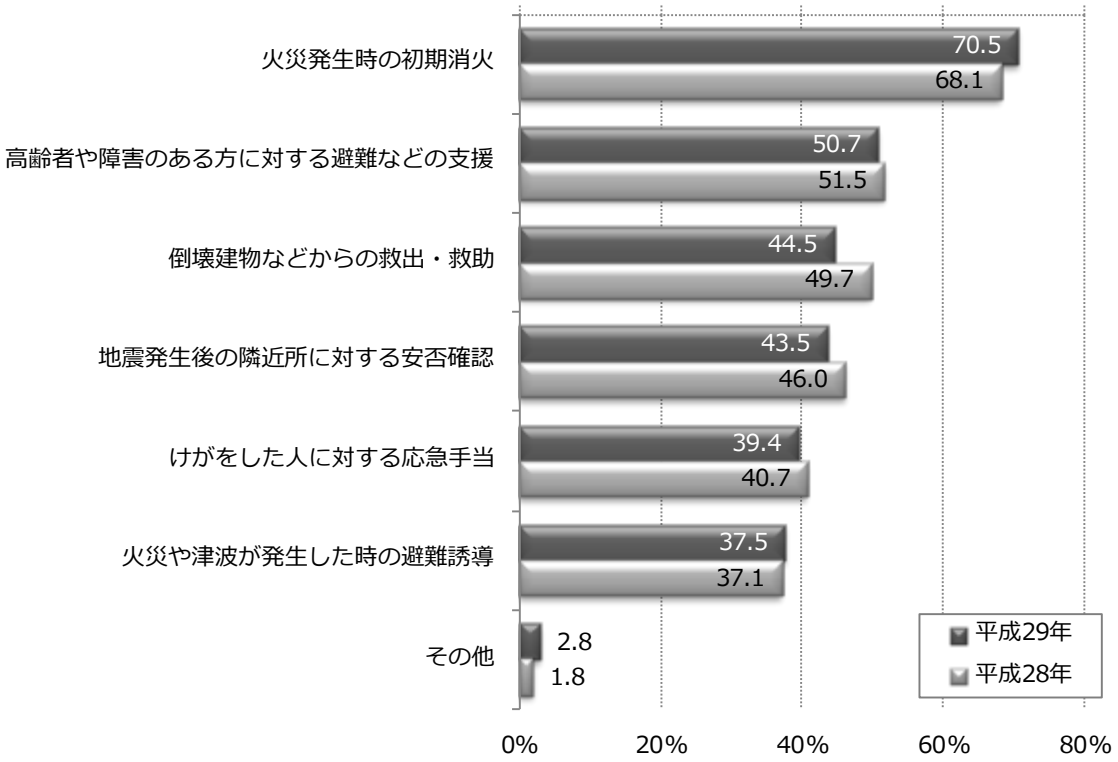
Q２ あなたが家でテレビを見ている時、緊急地震速報が流れました。あなたは、まず何をしますか。次の中から１つだけ選んでください。

	平成 27 年 (n=1,505)	平成 28 年 (n=1,370)	平成 29 年 (n=1,644)
使っている火を消したり、火の元を確認する	46.5	42.9	38.6
身の安全を図る	20.3	20.8	30.0
そのままの状態で様子を見る	14.4	18.5	14.8
戸や窓を開け避難路を確保する	16.3	16.6	14.5
外に出る	0.3	0.5	0.6
その他	0.9	0.7	1.1
無回答	1.3	0.0	0.3



Q３　大きな地震が発生した場合、地域で協力し合うことが大切です。そのため、日ごろから訓練などを通じて災害に備えることが必要ですが、あなたがお住まいの地域で、特に重要だと考える協力体制について、次の中からいくつでも選んでください。

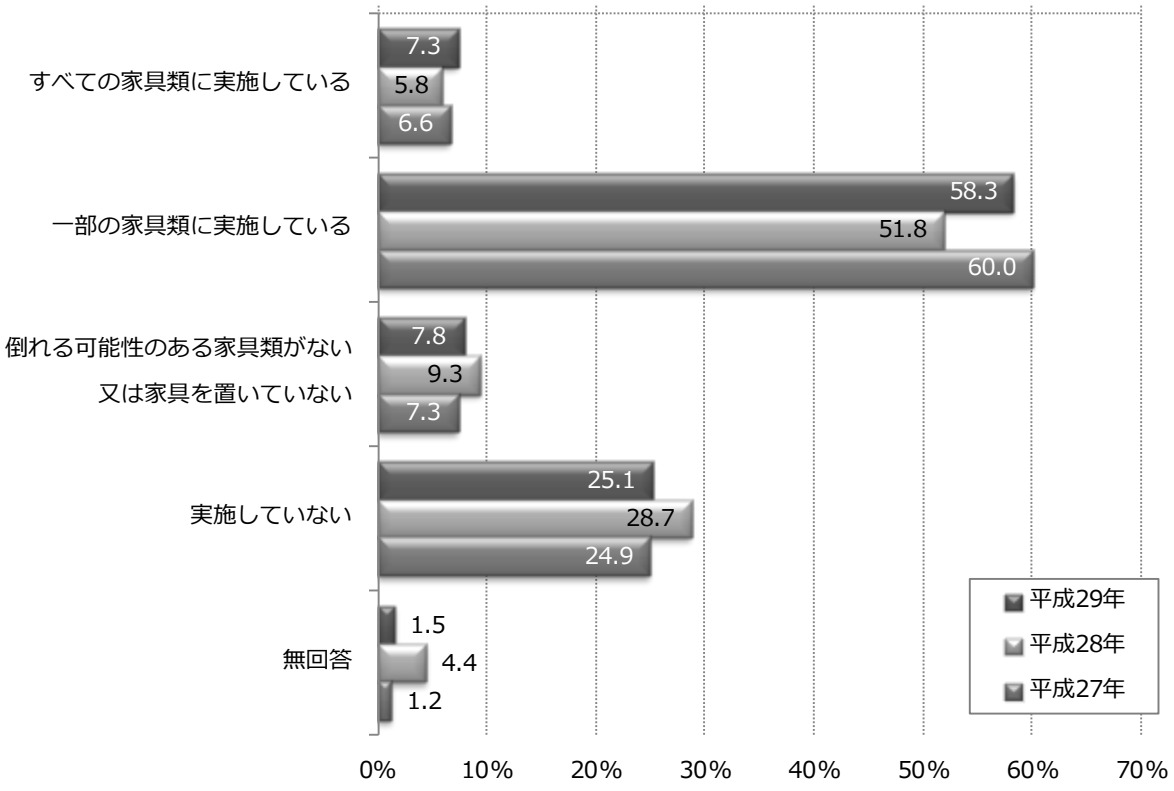
	平成 28 年 (n=1,370)	平成 29 年 (n=1,634)
火災発生時の初期消火	68.1	70.5
高齢者や障害のある方に対する避難などの支援	51.5	50.7
倒壊建物などからの救出・救助	49.7	44.5
地震発生後の隣近所に対する安否確認	46.0	43.5
けがをした人に対する応急手当	40.7	39.4
火災や津波が発生した時の避難誘導	37.1	37.5
その他	1.8	2.8



■家庭での地震に対する備えについて

Q４－１　近年、日本で発生した大きな地震では、家具や家電が倒れてきたり、高いところに置いてある物が落ちたりすることにより、多くの方が負傷しています。そこで、図１、図２を参考に、あなたの家での、「家具類の転倒・落下・移動防止対策」の実施状況を、次の中から１つだけ選んでください。

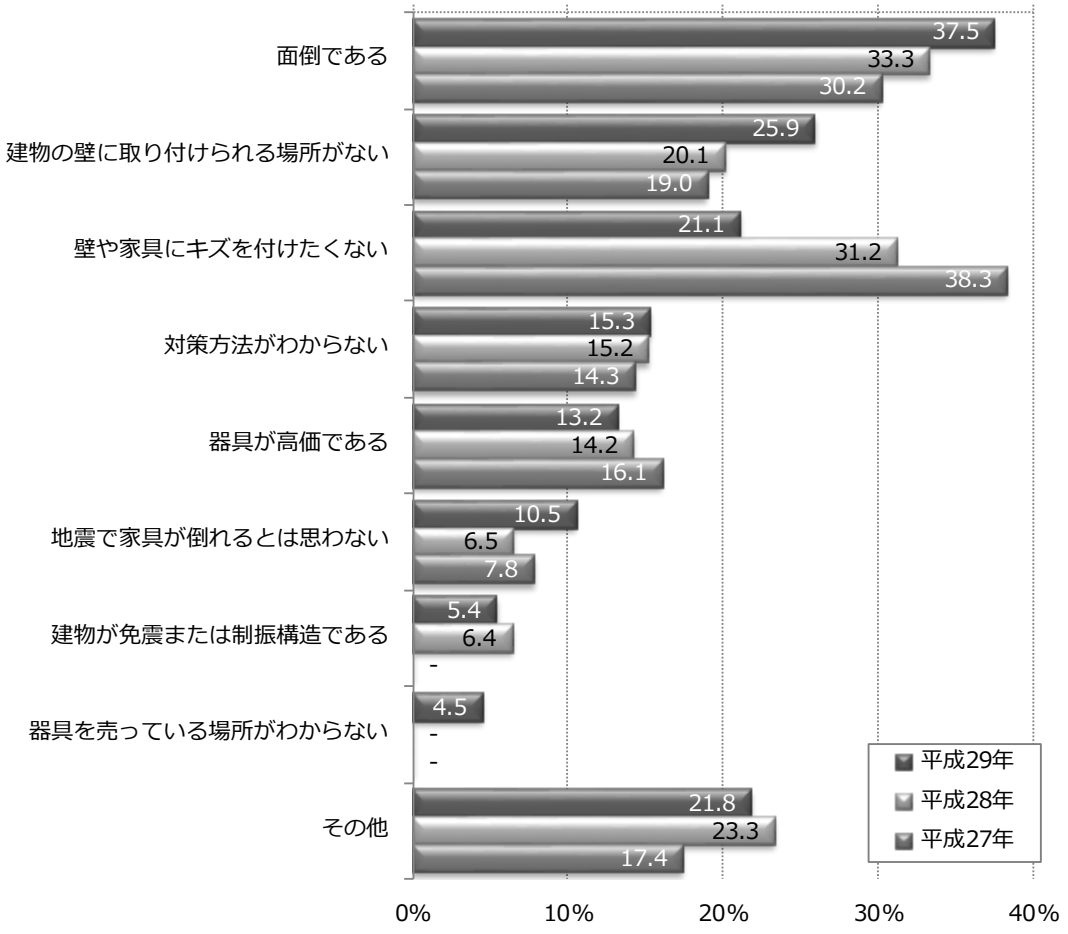
	平成 27 年 (n=1,505)	平成 28 年 (n=1,370)	平成 29 年 (n=1,644)
すべての家具類に実施している	6.6	5.8	7.3
一部の家具類に実施している	60.0	51.8	58.3
倒れる可能性のある家具類がない又は家具を置いていない	7.3	9.3	7.8
実施していない	24.9	28.7	25.1
無回答	1.2	4.4	1.5



Q４－２　Ｑ４－１で「一部の家具類に実施している」又は「実施していない」を選んだ方にお聞きします。家具類の転倒・落下・移動防止対策を実施していない（一部にのみ実施している方は、実施していない部分について）理由を、次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=1,156)	平成 28 年 (n=1,053)	平成 29 年 (n=1,321)
面倒である	30.2	33.3	37.5
建物の壁に取り付けられる場所がない	19.0	20.1	25.9
壁や家具にキズを付けたくない	38.3	31.2	21.1
対策方法がわからない	14.3	15.2	15.3
器具が高価である	16.1	14.2	13.2
地震で家具が倒れるとは思わない	7.8	6.5	10.5
建物が免震または制振構造である	—	6.4	5.4
器具を売っている場所がわからない（※）	—	—	4.5
その他	17.4	23.3	21.8

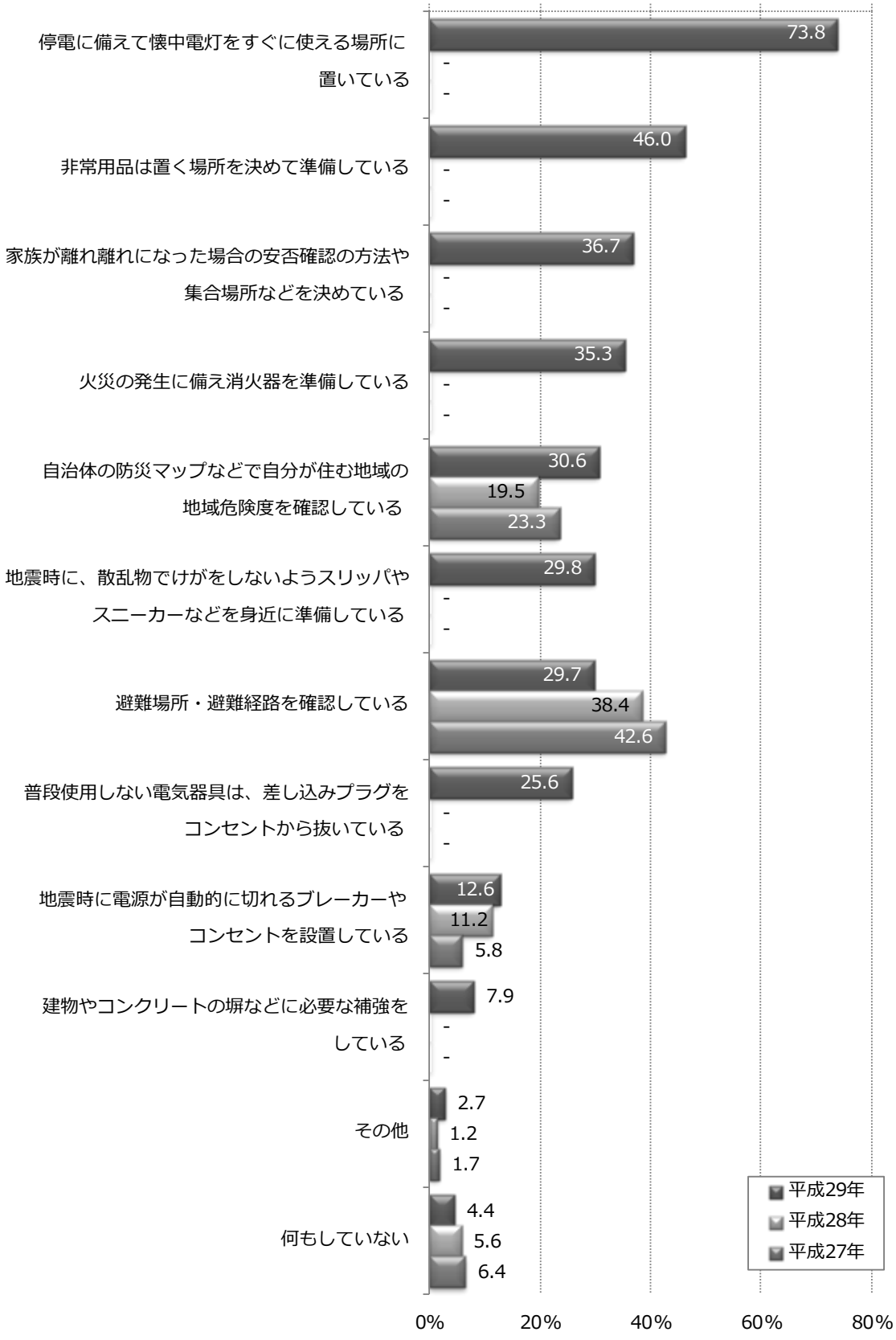
（※）は平成 29 年新規の選択肢



Q 5　家具類の転倒・落下・移動防止対策以外で、あなたの家で大地震への備えとして行っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=1,490)	平成 28 年 (n=1,369)	平成 29 年 (n=1,514)
停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いている（※）	—	—	73.8
非常用品は置く場所を決めて準備している（※）	—	—	46.0
家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めている（※）	—	—	36.7
火災の発生に備え消火器を準備している（※）	—	—	35.3
自治体の防災マップなどで自分が住む地域の地域危険度を確認している	23.3	19.5	30.6
地震時に、散乱物でけがをしないようスリッパやスニーカーなどを身近に準備している（※）	—	—	29.8
避難場所・避難経路を確認している	42.6	38.4	29.7
普段使用しない電気器具は、差し込みプラグをコンセントから抜いている（※）	—	—	25.6
地震時に電源が自動的に切れるブレーカーやコンセントを設置している	5.8	11.2	12.6
建物やコンクリートの塀などに必要な補強をしている（※）	—	—	7.9
その他	1.7	1.2	2.7
何もしていない	6.4	5.6	4.4

（※）は平成 29 年新規の選択肢

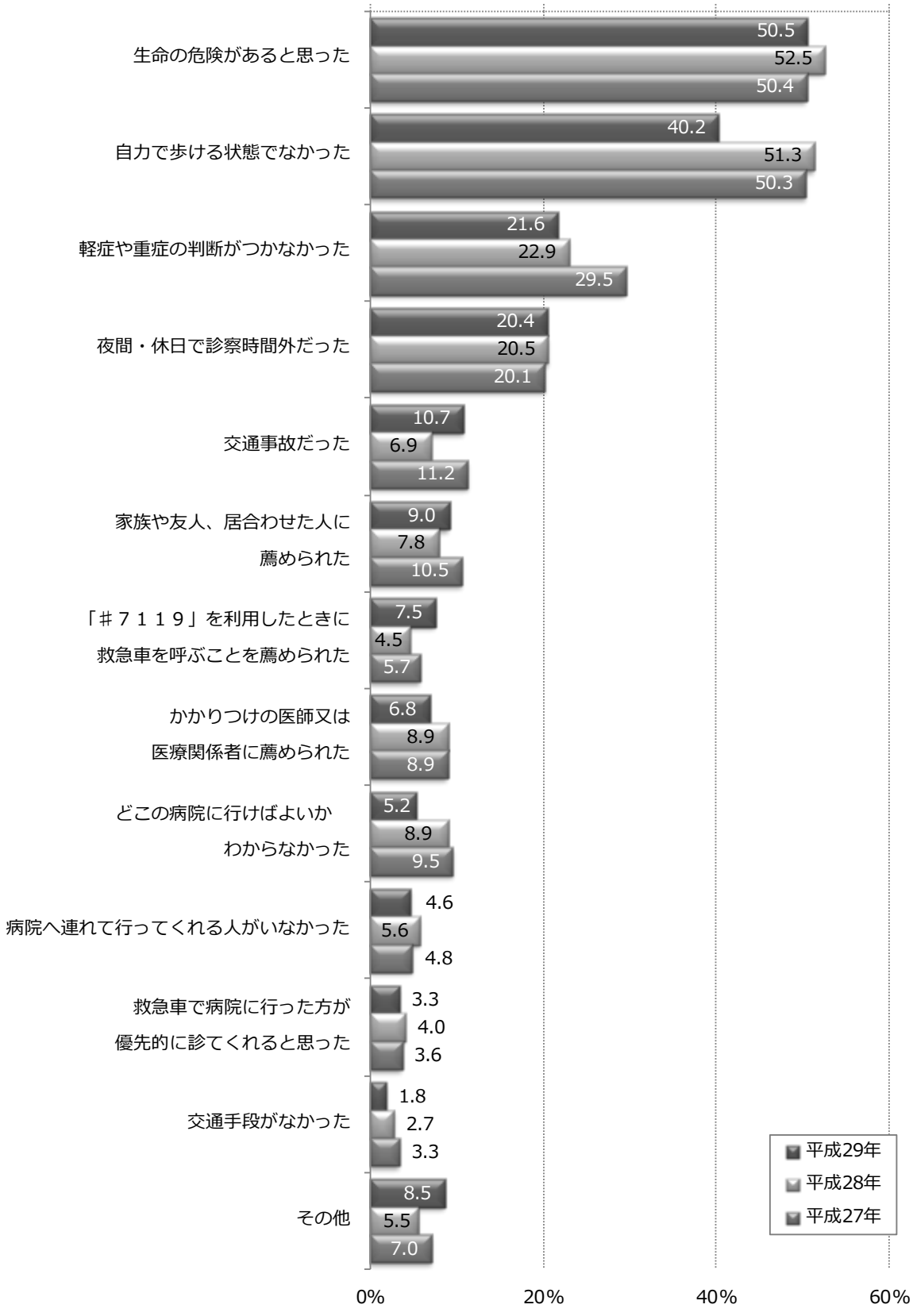

停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いている
73.8
-
-
非常用品は置く場所を決めて準備している
46.0
-
-
家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めている
36.7
-
-
火災の発生に備え消火器を準備している
35.3
-
-
自治体の防災マップなどで自分が住む地域の地域危険度を確認している
30.6
19.5
23.3
地震時に、散乱物でけがをしないようスリッパやスニーカーなどを身近に準備している
29.8
-
-
避難場所・避難経路を確認している
29.7
38.4
42.6
普段使用しない電気器具は、差し込みプラグをコンセントから抜いている
25.6
-
-
地震時に電源が自動的に切れるブレーカーやコンセントを設置している
12.6
11.2
5.8
建物やコンクリートの塀などに必要な補強をしている
7.9
-
-
その他
2.7
1.2
1.7
何もしていない
4.4
5.6
6.4
平成29年
平成28年
平成27年
0%
20%
40%
60%
80%

（3） 救急に関すること

■救急車を呼んだ（１１９番通報した）ことがある方について

Q６ あなたが、救急車を呼んだ理由を、次の中からいくつでも選んでください。

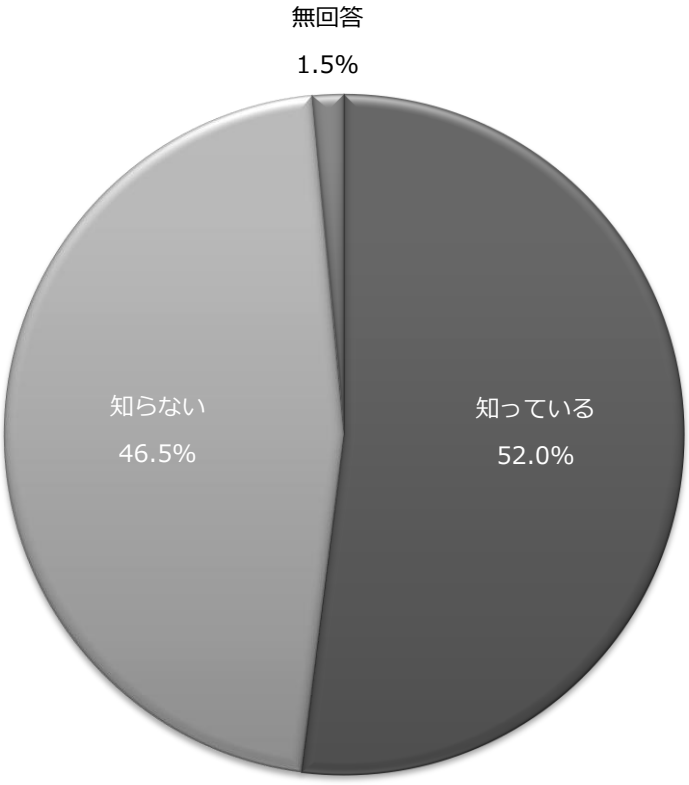
	平成 27 年 (n=787)	平成 28 年 (n=550)	平成 29 年 (n=866)
生命の危険があると思った	50.4	52.5	50.5
自力で歩ける状態でなかった	50.3	51.3	40.2
軽症や重症の判断がつかなかった	29.5	22.9	21.6
夜間・休日で診察時間外だった	20.1	20.5	20.4
交通事故だった	11.2	6.9	10.7
家族や友人、居合わせた人に薦められた	10.5	7.8	9.0
「＃7119」を利用したときに救急車を呼ぶことを薦められた	5.7	4.5	7.5
かかりつけの医師又は医療関係者に薦められた	8.9	8.9	6.8
どこの病院に行けばよいかわからなかった	9.5	8.9	5.2
病院へ連れて行ってくれる人がいなかった	4.8	5.6	4.6
救急車で病院に行った方が優先的に診てくれると思った	3.6	4.0	3.3
交通手段がなかった	3.3	2.7	1.8
その他	7.0	5.5	8.5


生命の危険があると思った
50.5
52.5
50.4
自力で歩ける状態でなかった
40.2
51.3
50.3
軽症や重症の判断がつかなかった
21.6
22.9
29.5
夜間・休日で診察時間外だった
20.4
20.5
20.1
交通事故だった
10.7
6.9
11.2
家族や友人、居合わせた人に
薦められた
9.0
7.8
10.5
「＃７１１９」を利用したときに
救急車を呼ぶことを薦められた
7.5
4.5
5.7
かかりつけの医師又は
医療関係者に薦められた
6.8
8.9
8.9
どこの病院に行けばよいか
わからなかった
5.2
8.9
9.5
病院へ連れて行ってくれる人がいなかった
4.6
5.6
4.8
救急車で病院に行った方が
優先的に診てくれると思った
3.3
4.0
3.6
交通手段がなかった
1.8
2.7
3.3
その他
8.5
5.5
7.0
平成29年
平成28年
平成27年
0%
20%
40%
60%

■「東京消防庁救急相談センター」及び「東京版救急受診ガイド」に関することについて

Q７　病院へ行くか、救急車を呼ぶか迷った時、電話で相談でき、また、インターネットを使って自分で緊急性を判断できる、「＃７１１９」を知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

	件　数	割合(%)
知っている	855	52.0
知らない	764	46.5
無回答	25	1.5
全　　体	1,644	100.0



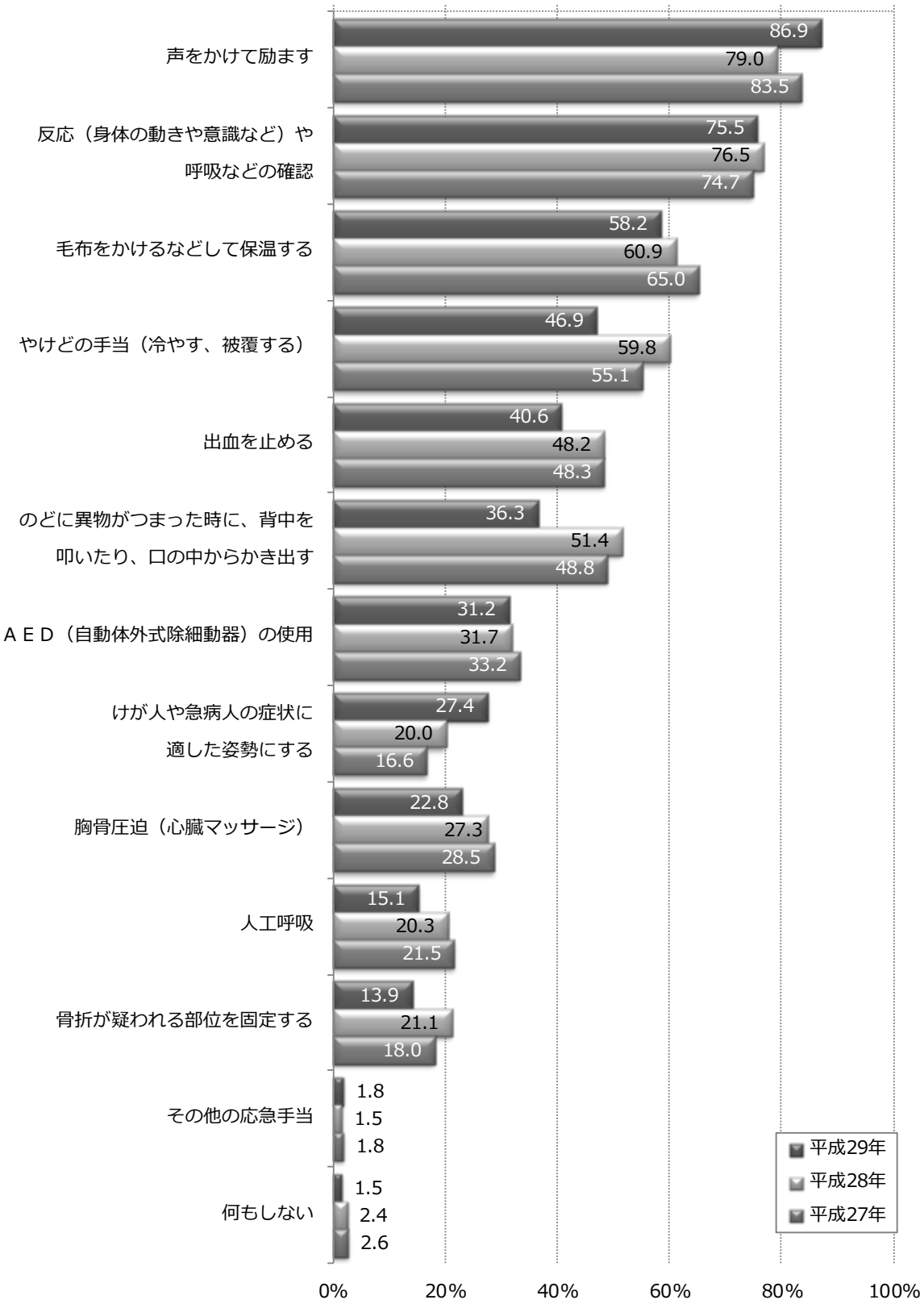
Q８　全員にお聞きします。「＃７１１９」について、ご意見、ご要望、利用したご感想などがあれば、ご記入ください。

※　記述回答（P. ５０に掲載）

■応急手当について

Ｑ９－１　あなたの周りの人が急病やけがをしたとき、あなたにできる応急手当を、次の中からいくつでも選んでください。

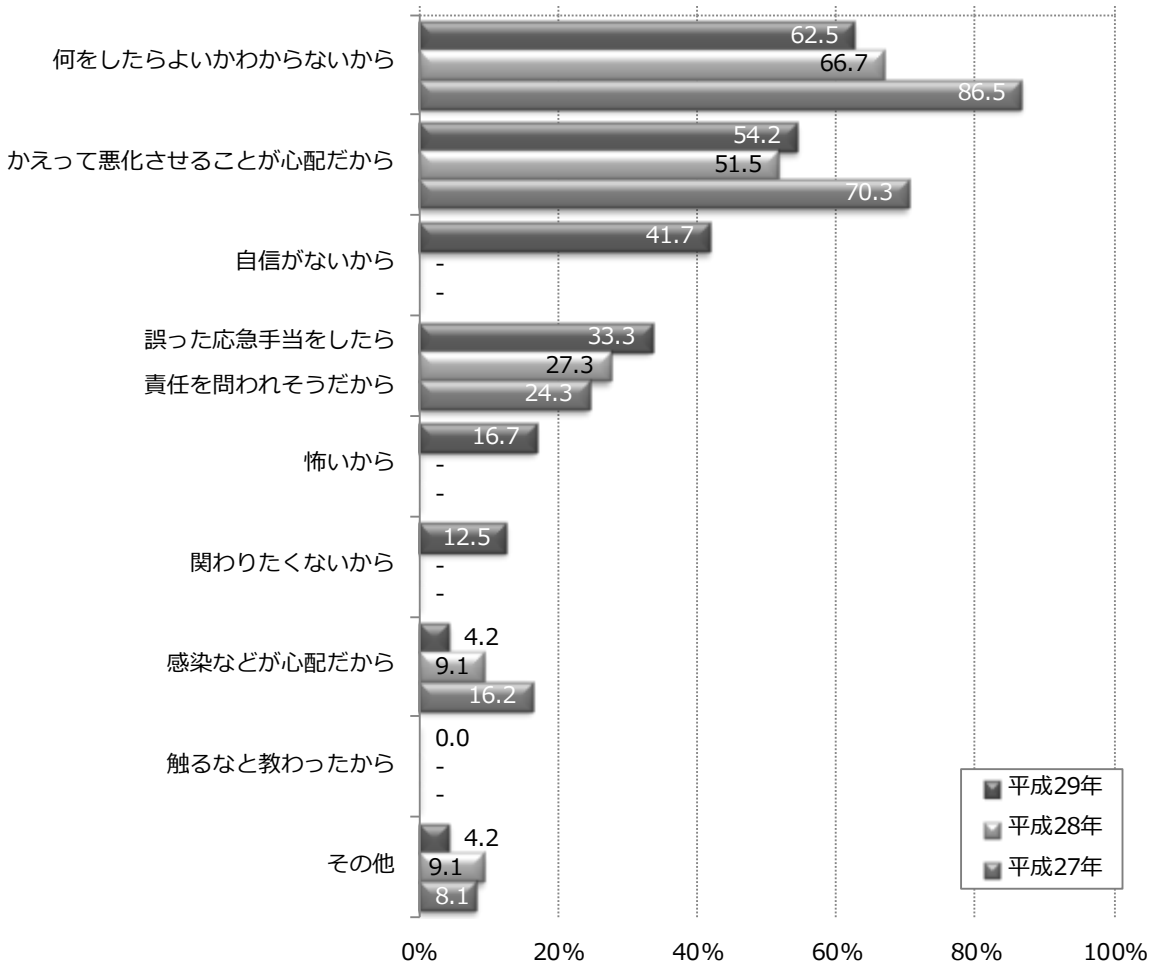
	平成 27 年 (n=1,472)	平成 28 年 (n=1,357)	平成 28 年 (n=1,630)
声をかけて励ます	83.5	79.0	86.9
反応（身体の動きや意識など）や呼吸などの確認	74.7	76.5	75.5
毛布をかけるなどして保温する	65.0	60.9	58.2
やけどの手当（冷やす、被覆する）	55.1	59.8	46.9
出血を止める	48.3	48.2	40.6
のどに異物がつまった時に、背中を叩いたり、口の中からかき出す	48.8	51.4	36.3
ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用	33.2	31.7	31.2
けが人や急病人の症状に適した姿勢にする	16.6	20.0	27.4
胸骨圧迫（心臓マッサージ）	28.5	27.3	22.8
人工呼吸	21.5	20.3	15.1
骨折が疑われる部位を固定する	18.0	21.1	13.9
その他の応急手当	1.8	1.5	1.8
何もしない	2.6	2.4	1.5


声をかけて励ます
86.9
79.0
83.5
反応（身体の動きや意識など）や呼吸などの確認
75.5
76.5
74.7
毛布をかけるなどして保温する
58.2
60.9
65.0
やけどの手当（冷やす、被覆する）
46.9
59.8
55.1
出血を止める
40.6
48.2
48.3
のどに異物がつまった時に、背中を叩いたり、口の中からかき出す
36.3
51.4
48.8
ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用
31.2
31.7
33.2
けが人や急病人の症状に適した姿勢にする
27.4
20.0
16.6
胸骨圧迫（心臓マッサージ）
22.8
27.3
28.5
人工呼吸
15.1
20.3
21.5
骨折が疑われる部位を固定する
13.9
21.1
18.0
その他の応急手当
1.8
1.5
1.8
何もしない
1.5
2.4
2.6
平成29年
平成28年
平成27年
0%
20%
40%
60%
80%
100%

Q９－２　Ｑ９－１で「何もしない」を選んだ方にお聞きします。あなたが、何もしない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=37)	平成 28 年 (n=33)	平成 29 年 (n=24)
何をしたらよいかわからないから	86.5	66.7	62.5
かえって悪化させることが心配だから	70.3	51.5	54.2
自信がないから（※）	—	—	41.7
誤った応急手当をしたら責任を問われそうだから	24.3	27.3	33.3
怖いから（※）	—	—	16.7
関わりたくないから（※）	—	—	12.5
感染などが心配だから	16.2	9.1	4.2
触るなと教わったから（※）	—	—	0.0
その他	8.1	9.1	4.2

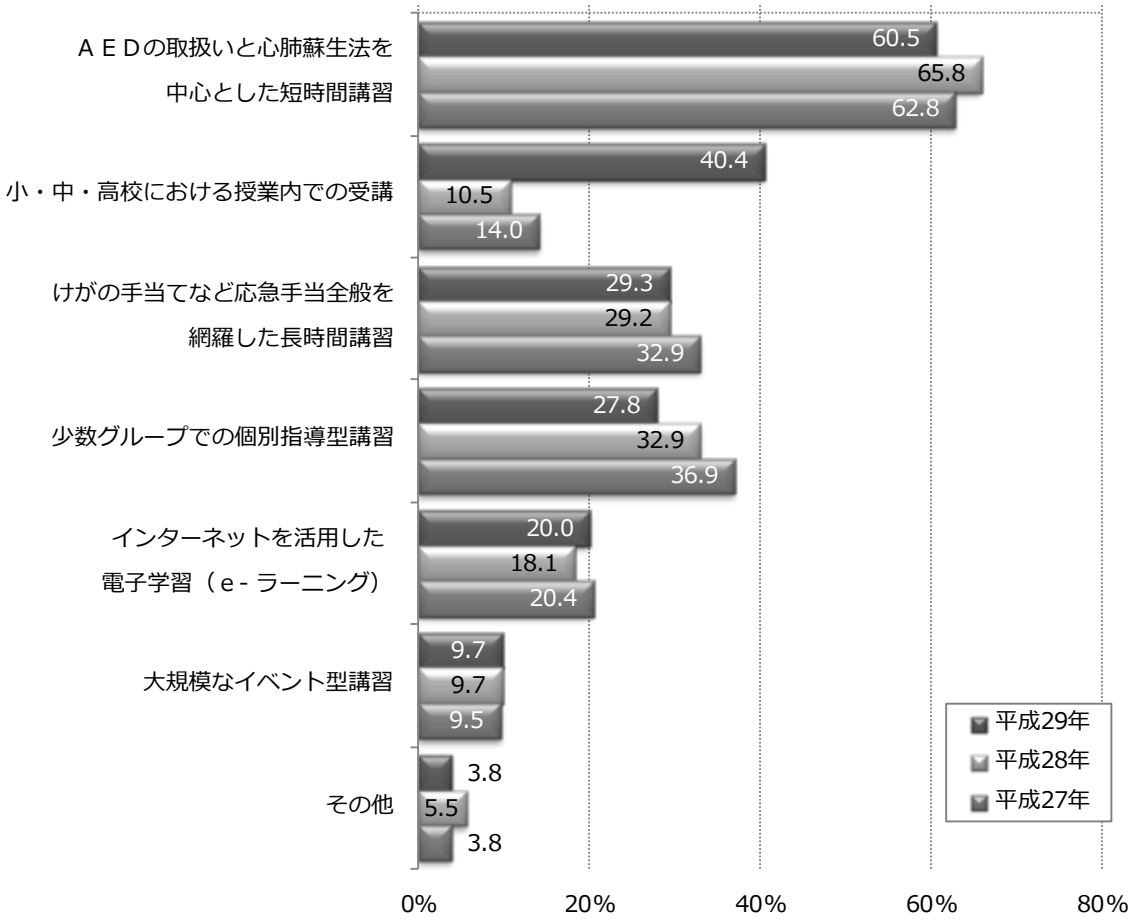
（※）は平成 29 年新規の選択肢



Ｑ１０　都民の方を対象に、様々な応急手当講習が行われています。あなたが受講してみたいと思う講習を、次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=1,397)	平成 28 年 (n=1,287)	平成 29 年 (n=1,551)
ＡＥＤの取扱いと心肺蘇生法を中心とした短時間講習	62.8	65.8	60.5
小・中・高校における授業内での受講（※）	14.0	10.5	40.4
けがの手当てなど応急手当全般を網羅した長時間講習	32.9	29.2	29.3
少数グループでの個別指導型講習	36.9	32.9	27.8
インターネットを活用した電子学習（ｅ- ラーニング）	20.4	18.1	20.0
大規模なイベント型講習	9.5	9.7	9.7
その他	3.8	5.5	3.8

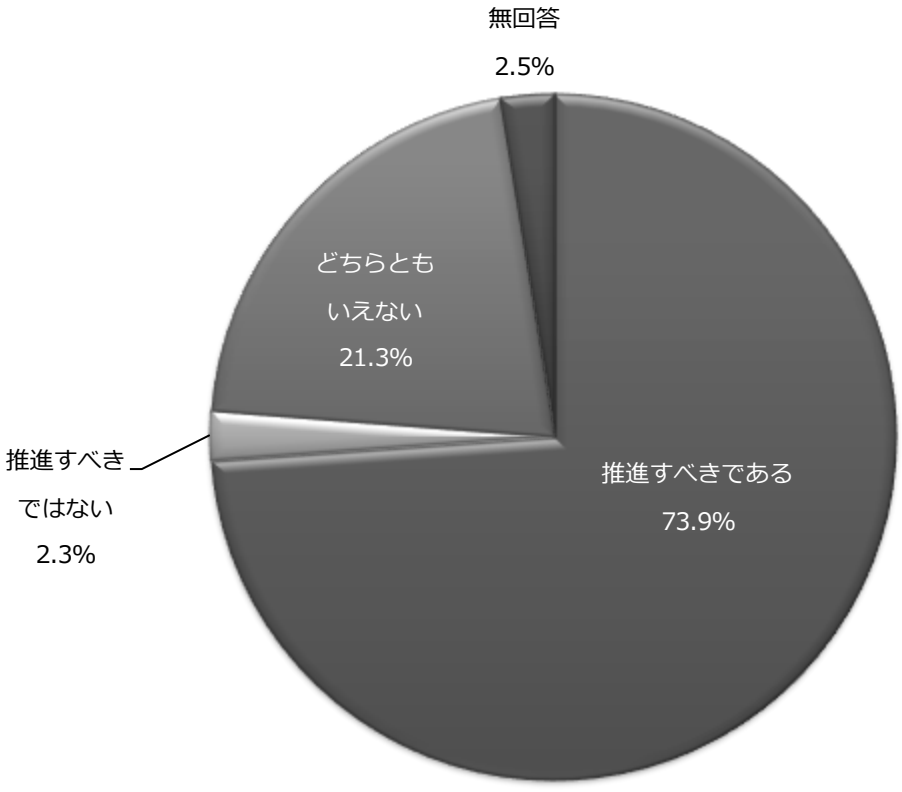
※「小・中・高校における授業内での受講」は平成２９年の調査では、学生時代に経験できればよかったという意見も含む』



■救急車を有効に運用するための制度について

Q１１　東京消防庁では、救急車が現場に到着した後に、医学的な判断基準に基づき緊急性がないと判断された場合に、同意を得たうえで、ご自身での受診を促しています（救急搬送トリアージ）が、この制度についてどう思いますか。次の中から１つだけ選んでください。また、その理由や消防機関への要望も具体的ご記入ください。

	件　数	割合(%)
推進すべきである	1,215	73.9
推進すべきではない	38	2.3
どちらともいえない	350	21.3
無回答	41	2.5
全　　体	1,644	100.0



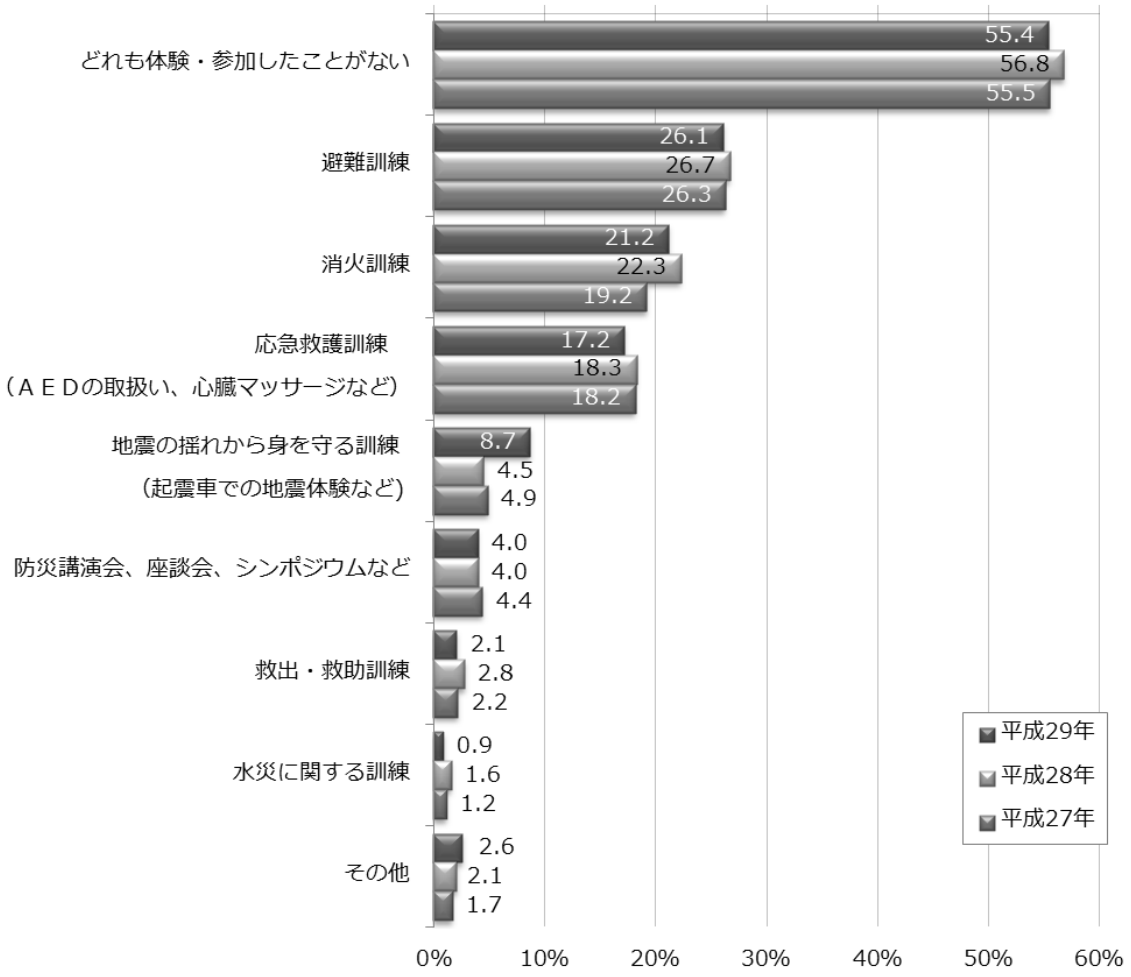
※　理由や要望記述回答（P. ５１に掲載）

（4） 自主防災に関すること

■防火防災訓練などについて

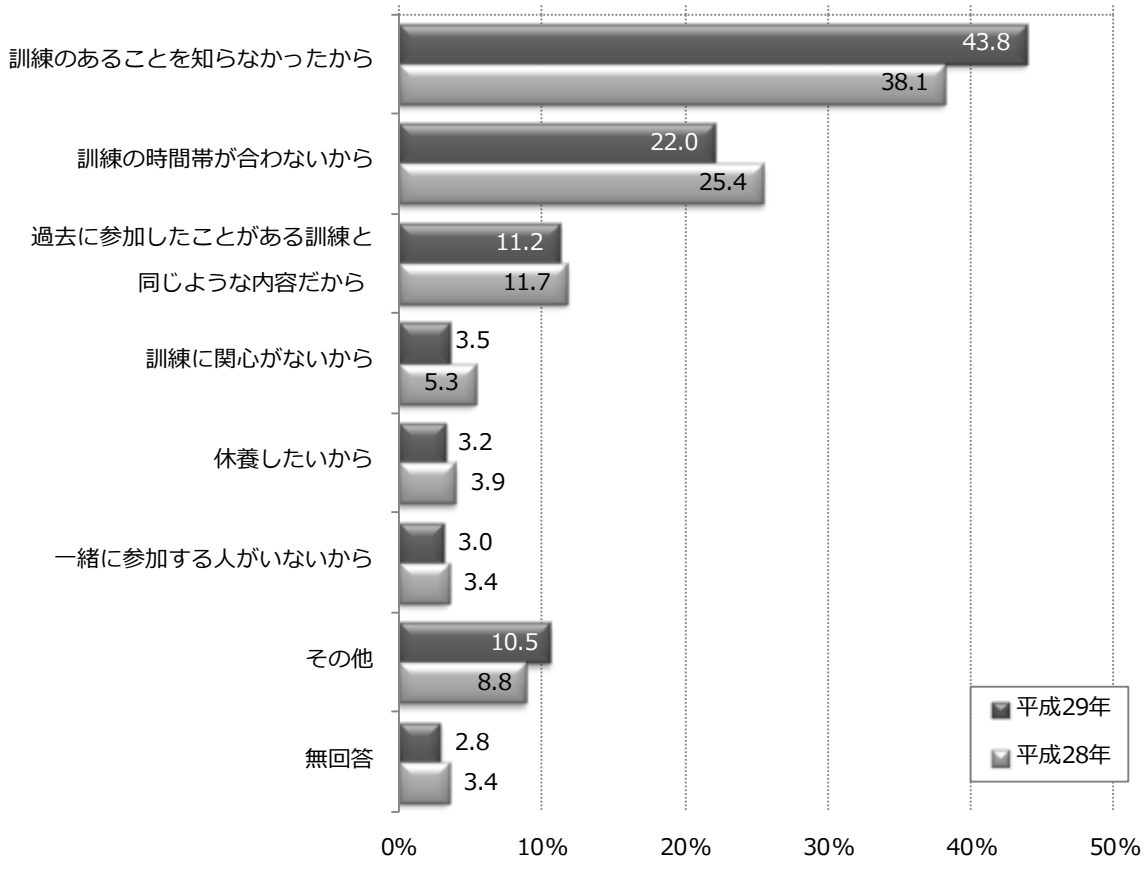
Ｑ１２－１ あなたが最近１年間で参加したことのある防火防災訓練や東京消防庁主催のイベントなどはありますか。次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=1,491)	平成 28 年 (n=1,339)	平成 29 年 (n=1,629)
どれも体験・参加したことがない	55.5	56.8	55.4
避難訓練	26.3	26.7	26.1
消火訓練	19.2	22.3	21.2
応急救護訓練（ＡＥＤの取扱い、心臓マッサージなど）	18.2	18.3	17.2
地震の揺れから身を守る訓練（起震車での地震体験など)	4.9	4.5	8.7
防災講演会、座談会、シンポジウムなど	4.4	4.0	4.0
救出・救助訓練	2.2	2.8	2.1
水災に関する訓練	1.2	1.6	0.9
その他	1.7	2.1	2.6



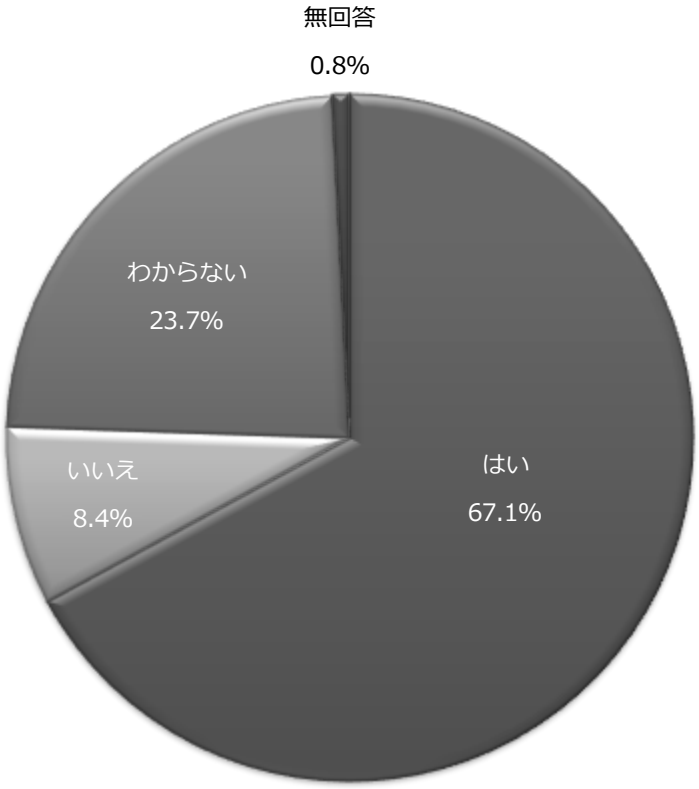
Ｑ１２－２　Ｑ１２－１で「どれも体験・参加したことがない」を選んだ方にお聞きします。
参加したことがない最も大きな理由を、次の中から１つだけ選んでください。

	平成 28 年 (n=761)	平成 29 年 (n=902)
訓練のあることを知らなかったから	38.1	43.8
訓練の時間帯が合わないから	25.4	22.0
過去に参加したことがある訓練と同じような内容だから	11.7	11.2
訓練に関心がないから	5.3	3.5
休養したいから	3.9	3.2
一緒に参加する人がいないから	3.4	3.0
その他	8.8	10.5
無回答	3.4	2.8



Q１３　消火器についてお聞きします。あなたは消火器を使うことができますか。次の中から１つだけ選んでください。

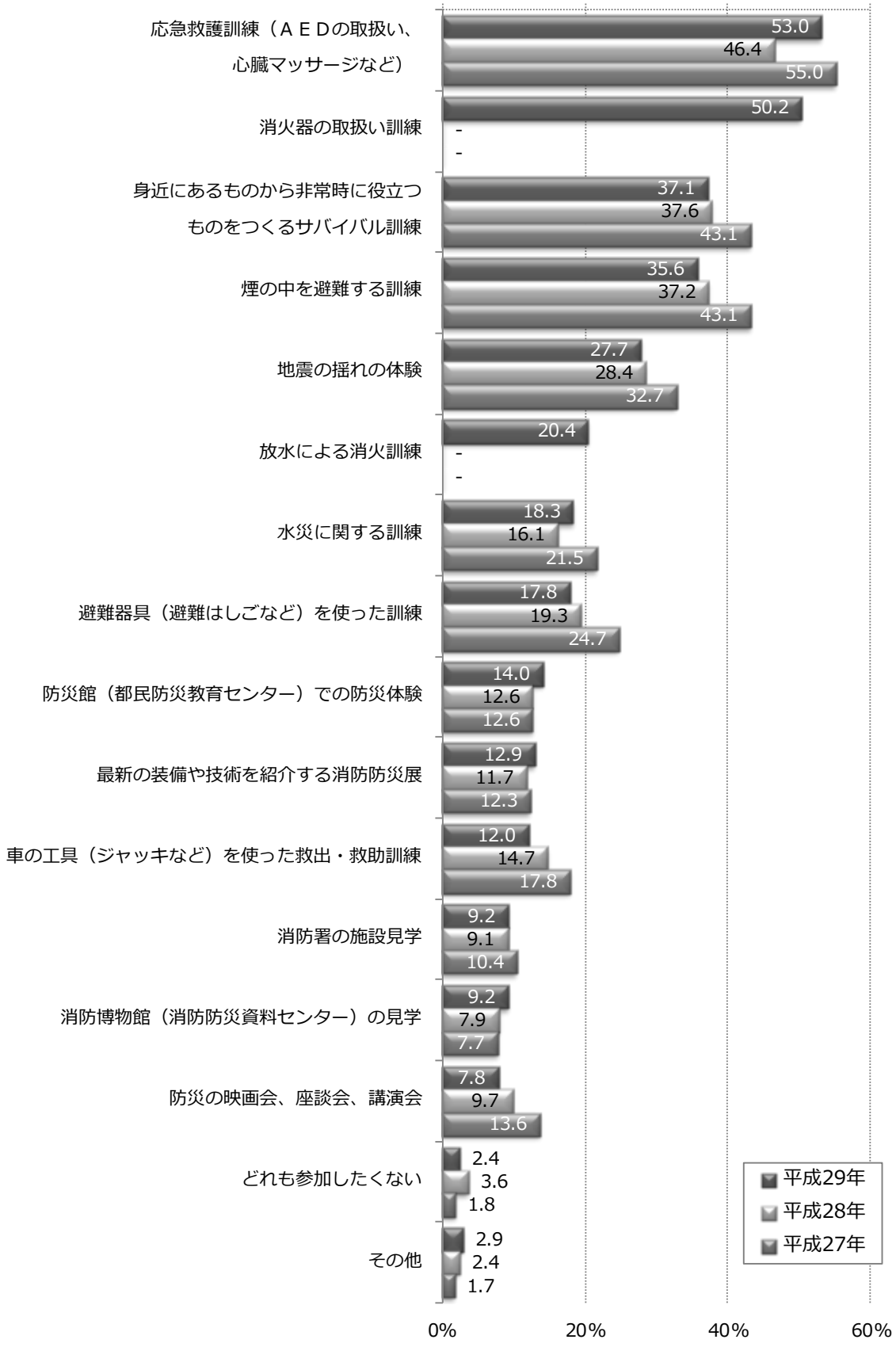
	件　数	割合(%)
はい	1,104	67.1
いいえ	138	8.4
わからない	389	23.7
無回答	13	0.8
全　　体	1,644	100.0



Ｑ１４　訓練やイベントなどで、あなたが参加・体験したいものはどれですか。次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=1,439)	平成 28 年 (n=1,297)	平成 29 年 (n=1,612)
応急救護訓練（ＡＥＤの取扱い、心臓マッサージなど）	55.0	46.4	53.0
消火器の取扱い訓練（※）	―	―	50.2
身近にあるものから非常時に役立つものをつくるサバイバル訓練	43.1	37.6	37.1
煙の中を避難する訓練	43.1	37.2	35.6
地震の揺れの体験	32.7	28.4	27.7
放水による消火訓練（※）	―	―	20.4
水災に関する訓練	21.5	16.1	18.3
避難器具（避難はしごなど）を使った訓練	24.7	19.3	17.8
防災館（都民防災教育センター）での防災体験	12.6	12.6	14.0
最新の装備や技術を紹介する消防防災展	12.3	11.7	12.9
車の工具（ジャッキなど）を使った救出・救助訓練	17.8	14.7	12.0
消防署の施設見学	10.4	9.1	9.2
消防博物館（消防防災資料センター）の見学	7.7	7.9	9.2
防災の映画会、座談会、講演会	13.6	9.7	7.8
どれも参加したくない	1.8	3.6	2.4
その他	1.7	2.4	2.9

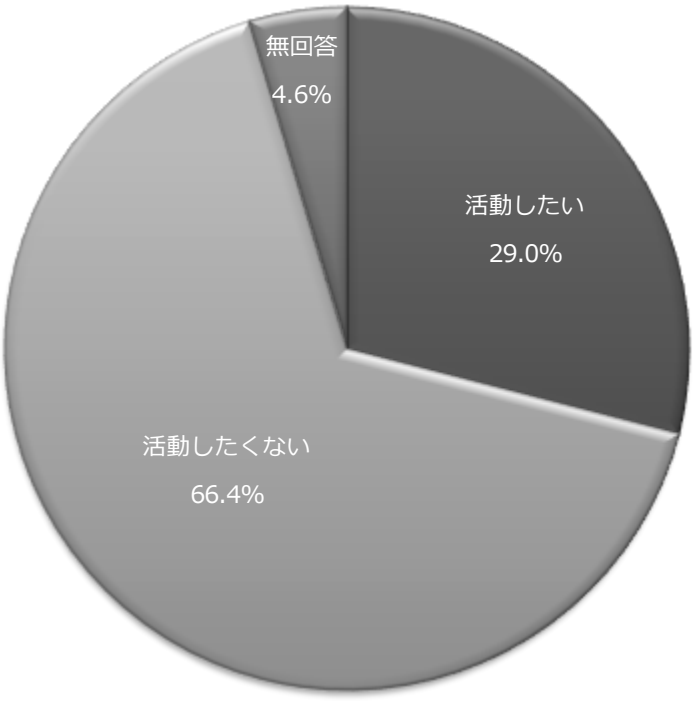
（※）は平成 29 年新規の選択肢


応急救護訓練（ＡＥＤの取扱い、心臓マッサージなど）
53.0
46.4
55.0
消火器の取扱い訓練
50.2
-
-
身近にあるものから非常時に役立つものをつくるサバイバル訓練
37.1
37.6
43.1
煙の中を避難する訓練
35.6
37.2
43.1
地震の揺れの体験
27.7
28.4
32.7
放水による消火訓練
20.4
-
-
水災に関する訓練
18.3
16.1
21.5
避難器具（避難はしごなど）を使った訓練
17.8
19.3
24.7
防災館（都民防災教育センター）での防災体験
14.0
12.6
12.6
最新の装備や技術を紹介する消防防災展
12.9
11.7
12.3
車の工具（ジャッキなど）を使った救出・救助訓練
12.0
14.7
17.8
消防署の施設見学
9.2
9.1
10.4
消防博物館（消防防災資料センター）の見学
9.2
7.9
7.7
防災の映画会、座談会、講演会
7.8
9.7
13.6
どれも参加したくない
2.4
3.6
1.8
その他
2.9
2.4
1.7
平成29年
平成28年
平成27年
0%
20%
40%
60%

■災害時支援ボランティアについて

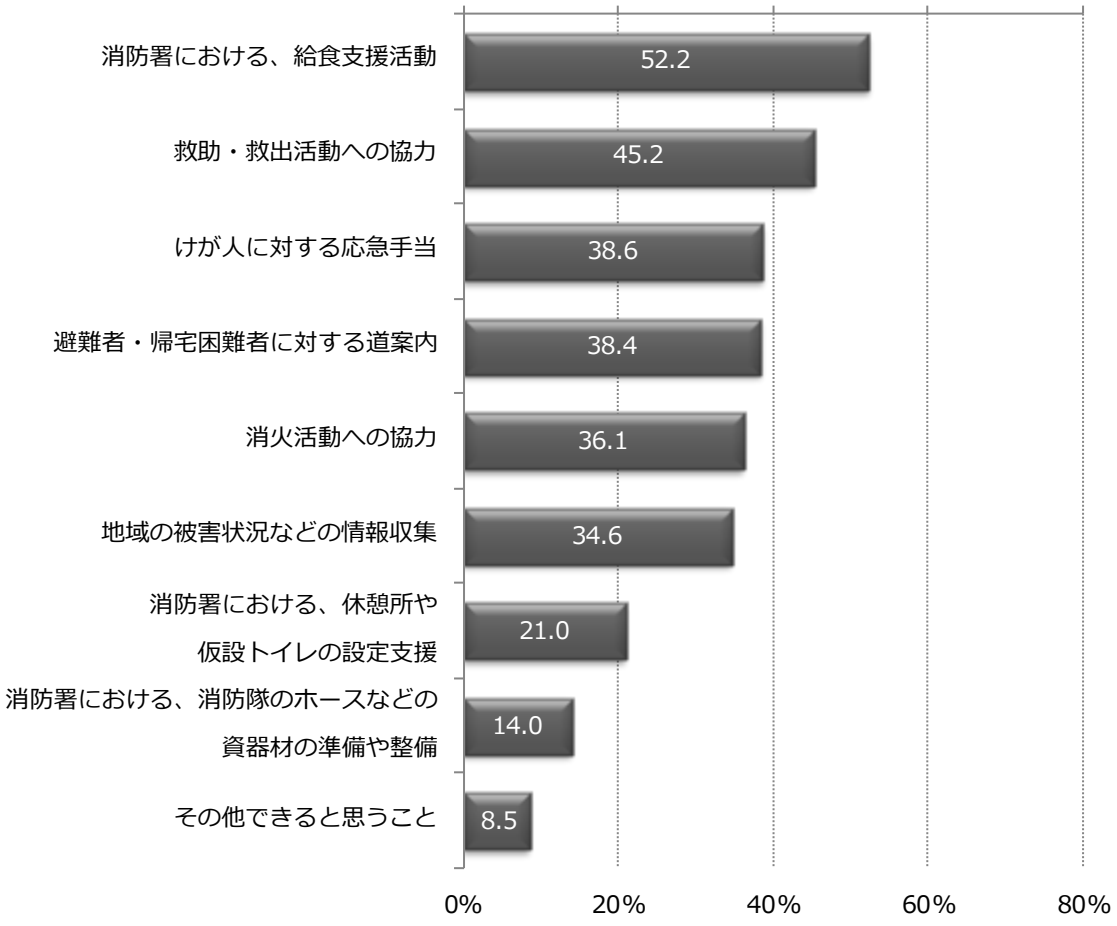
Ｑ１５－１　東京消防庁では、震災時などに消防活動を支援する災害時支援ボランティアを募集していますが、あなたは災害時支援ボランティアに登録し、支援をしたいと思いますか？次の中から１つだけ選んでください。

	件　数	割合(%)
活動したい	477	29.0
活動したくない	1,092	66.4
無回答	75	4.6
全　　体	1,644	100.0



Ｑ１５－２　Ｑ１５－１で、災害時支援ボランティアに登録し、「活動したい」を選んだ方にお聞きします。あなたが震災時などにできると思う活動を、次の中からいくつでも選んでください。

	件　数	割合(%)
消防署における、給食支援活動	246	52.2
救助・救出活動への協力	213	45.2
けが人に対する応急手当	182	38.6
避難者・帰宅困難者に対する道案内	181	38.4
消火活動への協力	170	36.1
地域の被害状況などの情報収集	163	34.6
消防署における、休憩所や仮設トイレの設定支援	99	21.0
消防署における、消防隊のホースなどの資器材の準備や整備	66	14.0
その他できると思うこと	40	8.5
全　　体	471	100.0

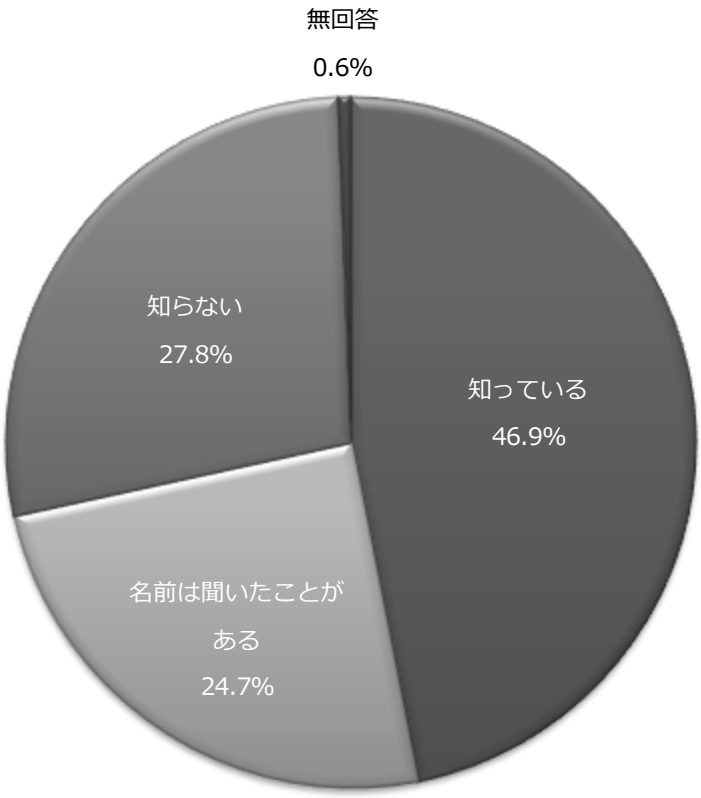


（5）　消防団に関すること

■消防団について

Ｑ１６　あなたは、あなたの地域の安全・安心を守る消防団を知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

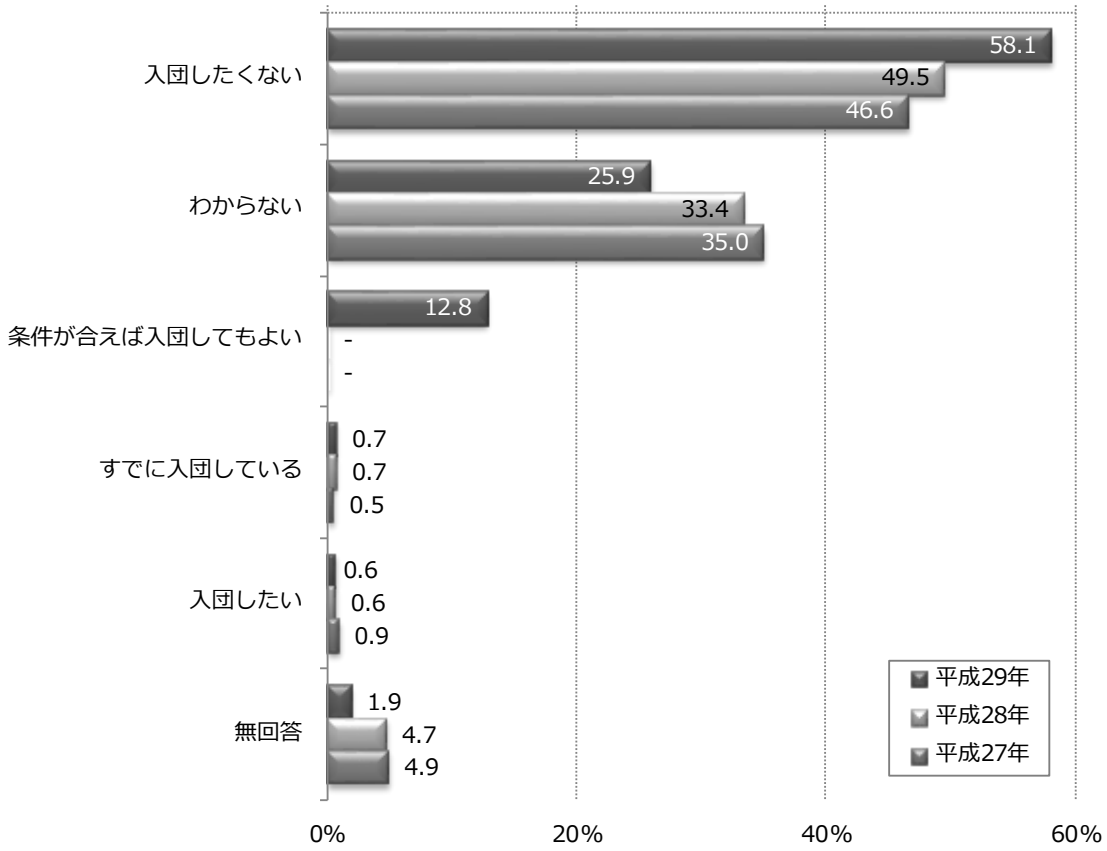
	件　数	割合(%)
知っている	771	46.9
名前は聞いたことがある	406	24.7
知らない	457	27.8
無回答	10	0.6
全　　体	1,644	100.0



Ｑ１７－１　地域の安全・安心を守るため、あなたは消防団に入団したいと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。

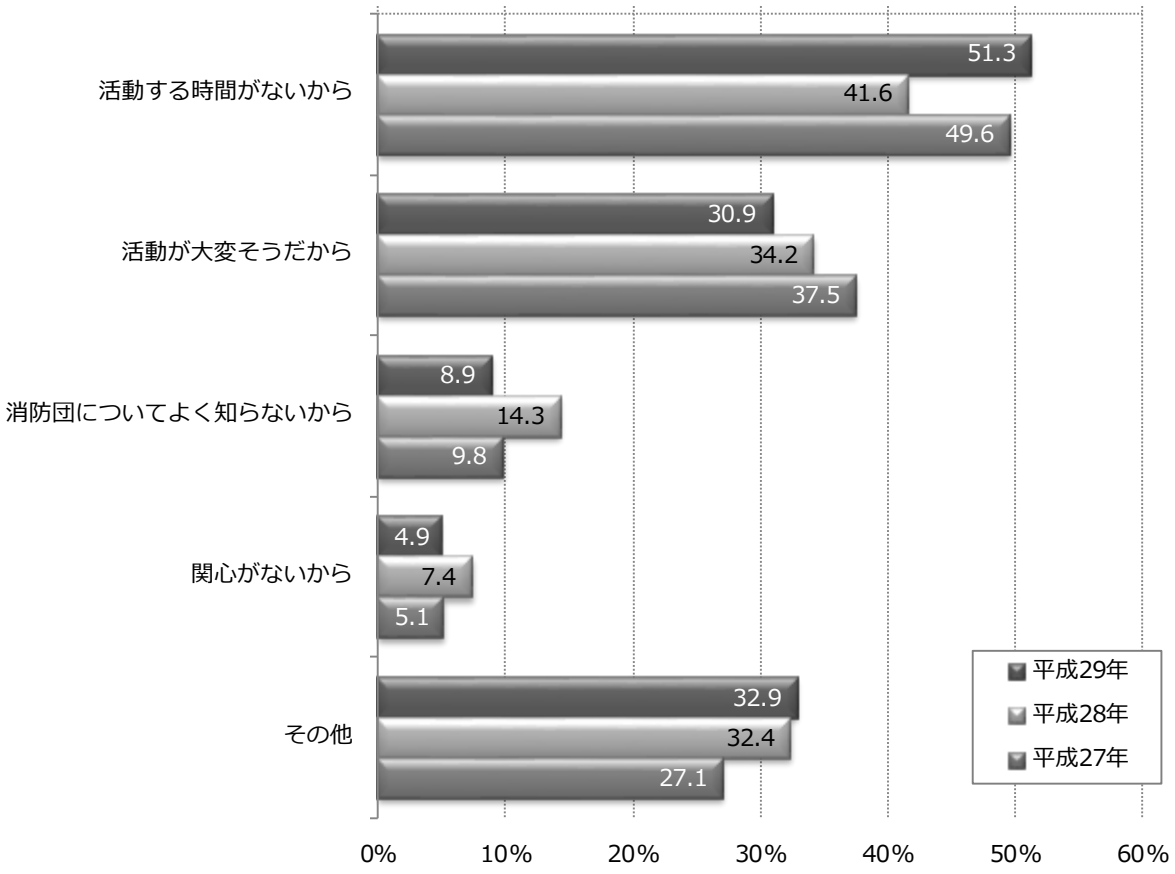
	平成 27 年 (n=1,505)	平成 28 年 (n=1,370)	平成 29 年 (n=1,177)
入団したくない	46.6	49.5	58.1
わからない	35.0	33.4	25.9
条件が合えば入団してもよい（※）	―	―	12.8
すでに入団している	0.5	0.7	0.7
入団したい	0.9	0.6	0.6
無回答	4.9	4.7	1.9

（※）は平成 29 年新規の選択肢



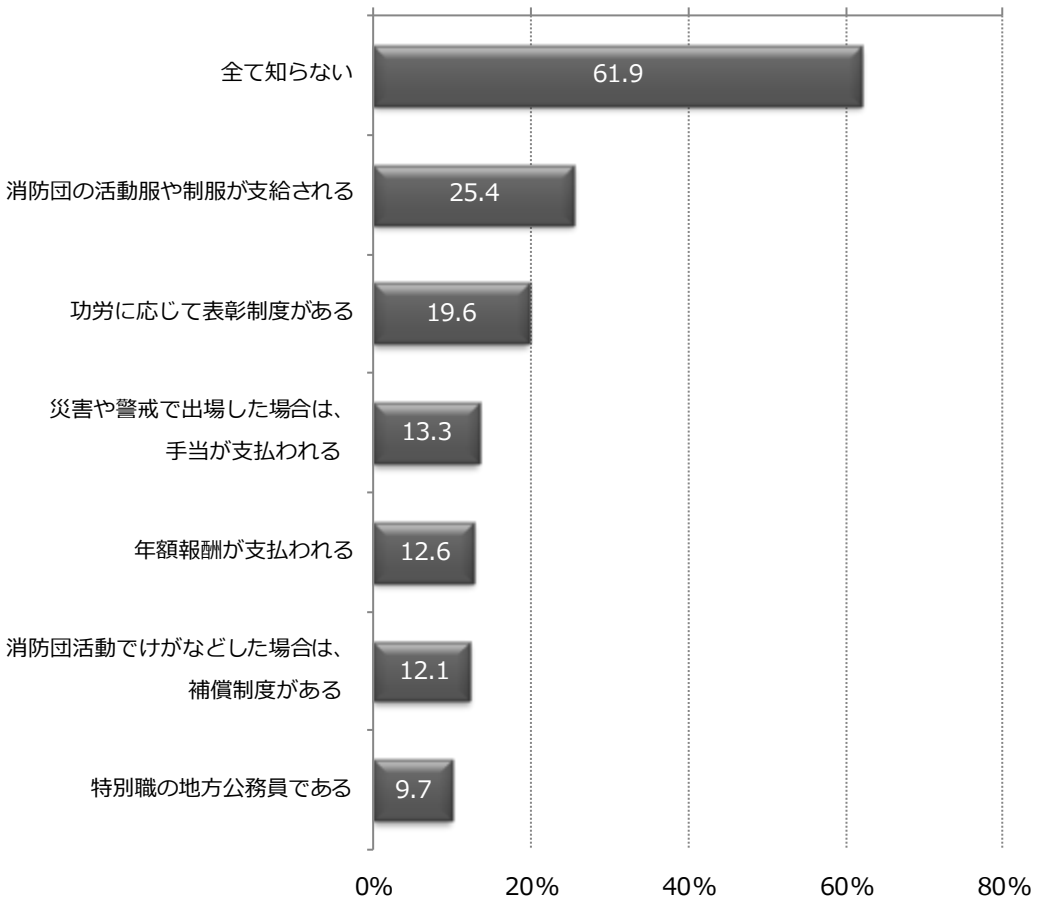
Q１７－２　Ｑ１７－１で「入団したくない」を選んだ方にお聞きします。入団したくない理由を、次の中からいくつでも選んでください。

	平成 27 年 (n=691)	平成 28 年 (n=666)	平成 29 年 (n=677)
活動する時間がないから	49.6	41.6	51.3
活動が大変そうだから	37.5	34.2	30.9
消防団についてよく知らないから	9.8	14.3	8.9
関心がないから	5.1	7.4	4.9
その他	27.1	32.4	32.9



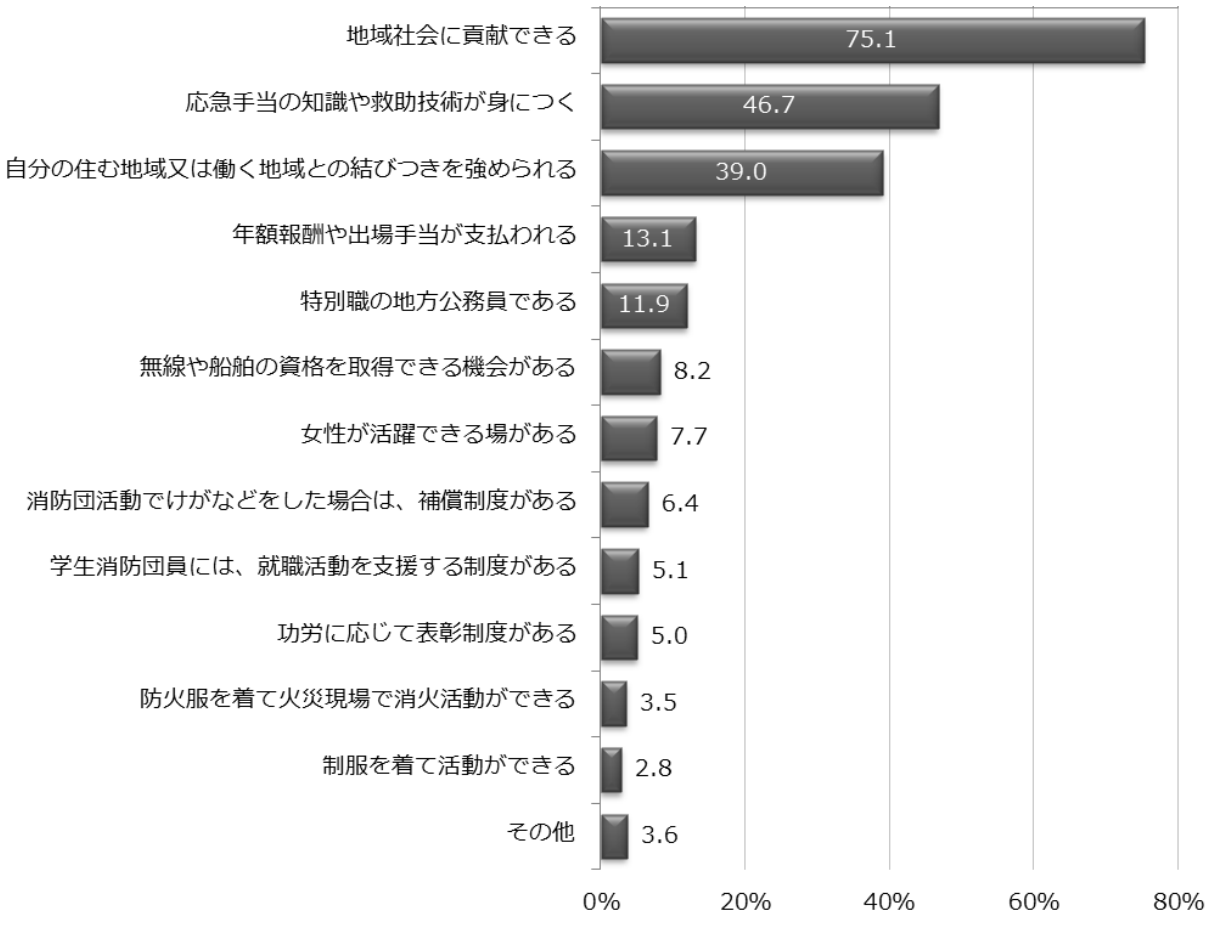
Q１８　次の内容は消防団員の待遇についてです。あなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

	件　数	割合(%)
全て知らない	990	61.9
消防団の活動服や制服が支給される	406	25.4
功労に応じて表彰制度がある	314	19.6
災害や警戒で出場した場合は、手当が支払われる	213	13.3
年額報酬が支払われる	201	12.6
消防団活動でけがなどした場合は、補償制度がある	193	12.1
特別職の地方公務員である	155	9.7
全　　体	1,600	100.0



Q１９　消防団の活動であなたが魅力を感じることについて、次の中からいくつでも選んでください。

	件　数	割合(%)
地域社会に貢献できる	1,114	75.1
応急手当の知識や救助技術が身につく	693	46.7
自分の住む地域又は働く地域との結びつきを強められる	579	39.0
年額報酬や出場手当が支払われる	195	13.1
特別職の地方公務員である	177	11.9
無線や船舶の資格を取得できる機会がある	121	8.2
女性が活躍できる場がある	114	7.7
消防団活動でけがなどをした場合は、補償制度がある	95	6.4
学生消防団員には、就職活動を支援する制度がある	76	5.1
功労に応じて表彰制度がある	74	5.0
防火服を着て火災現場で消火活動ができる	52	3.5
制服を着て活動ができる	42	2.8
その他	54	3.6
全　　体	1,483	100.0

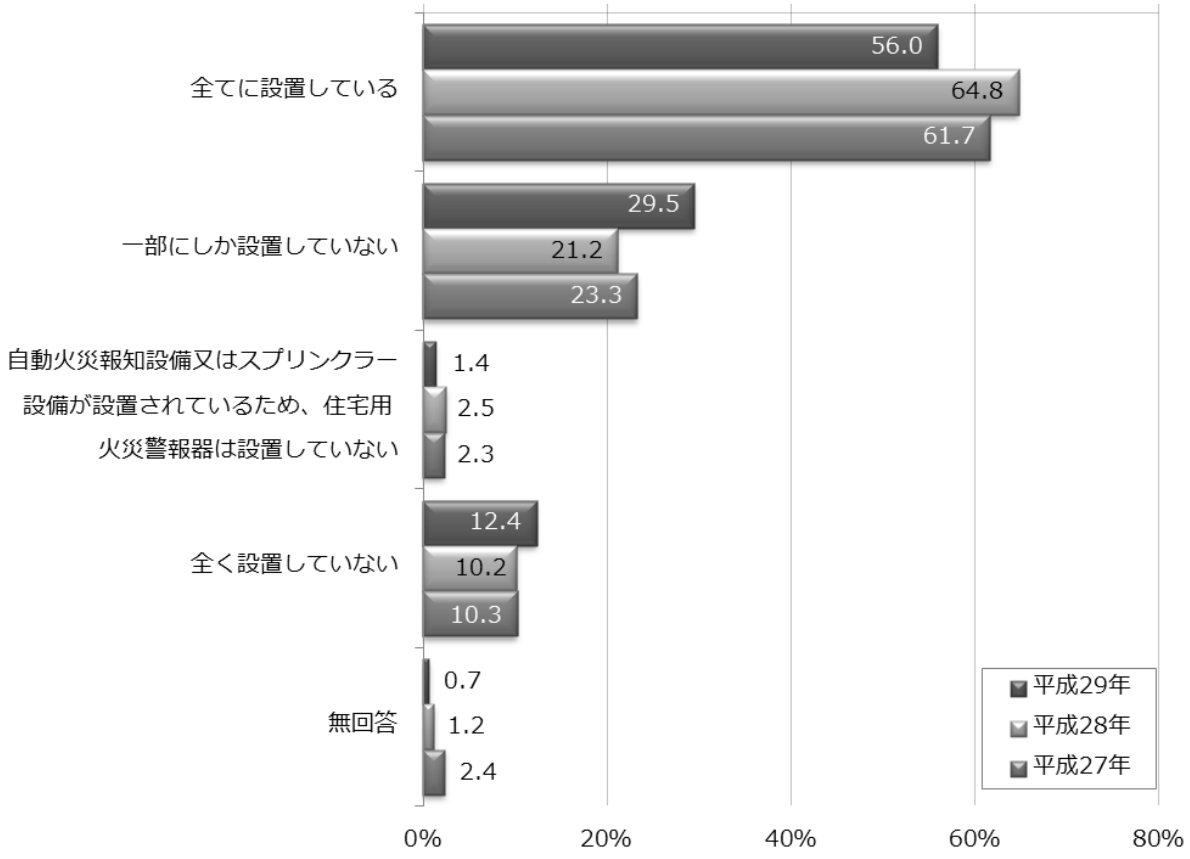


（6） 火災予防に関すること

■住宅用火災警報器について

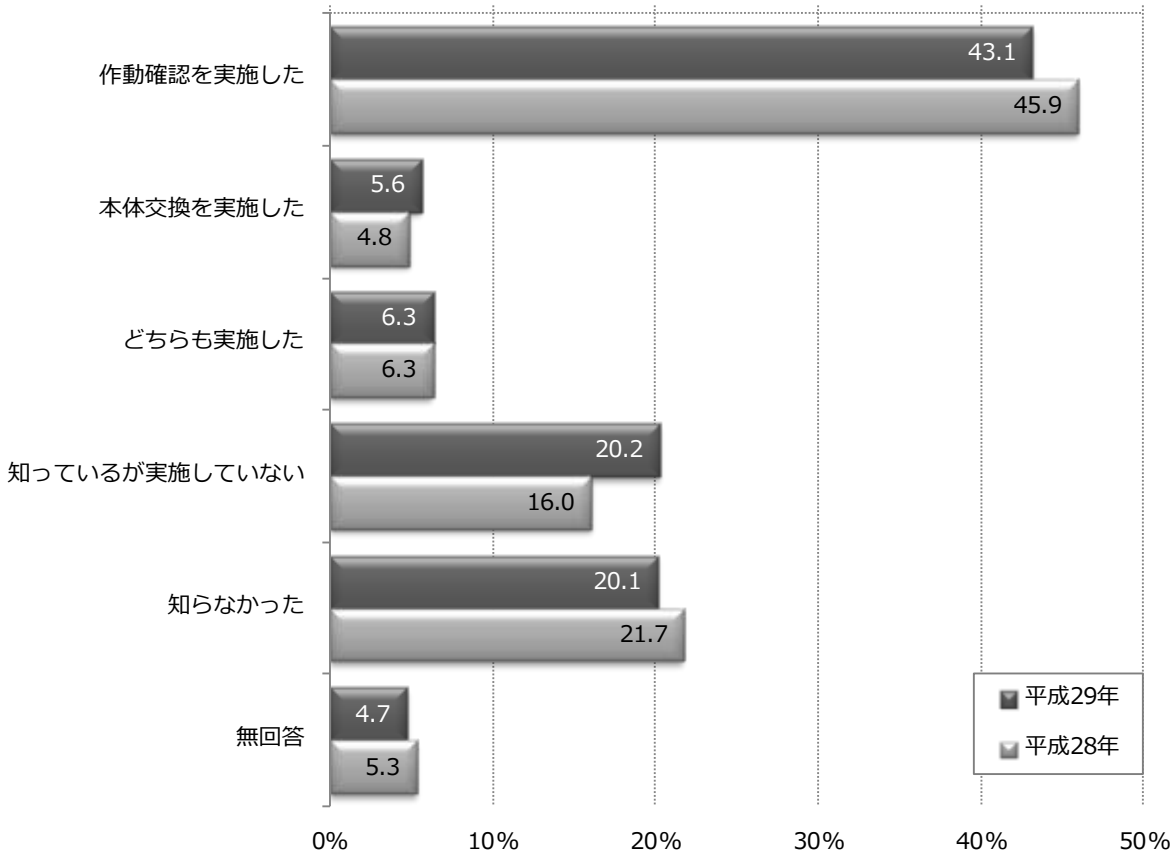
Ｑ２０－1　住宅用火災警報器は、全ての居室、台所、階段に設置が義務付けられています。
あなたのお住まいの設置状況を、次の中から１つだけ選んでください。

	平成 27 年 (n=1,505)	平成 28 年 (n=1,370)	平成 29 年 (n=1,644)
全てに設置している	61.7	64.8	56.0
一部にしか設置していない	23.3	21.2	29.5
自動火災報知設備又はスプリンクラー設備が設置されているため、住宅用火災警報器は設置していない	2.3	2.5	1.4
全く設置していない	10.3	10.2	12.4
無回答	2.4	1.2	0.7



Q２０－２　Ｑ２０－１で「全てに設置している」及び「一部にしか設置していない」を選んだ方にお聞きします。あなたはこれまでにお住まいの住宅用火災警報器の作動確認及び本体交換を実施したことがありますか。次の中から１つだけ選んでください。

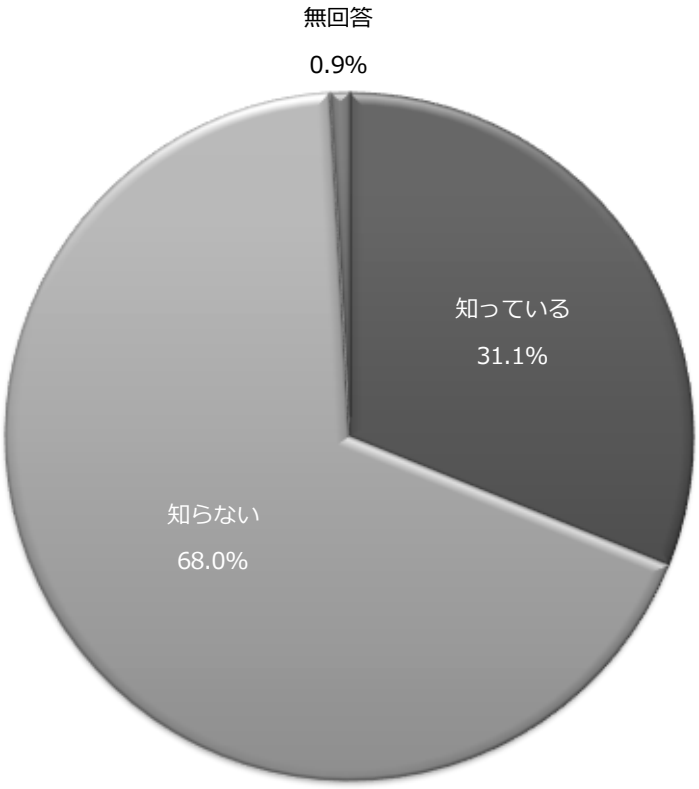
	平成 28 年 (n=1,179)	平成 29 年 (n=1,405)
作動確認を実施した	45.9	43.1
本体交換を実施した	4.8	5.6
どちらも実施した	6.3	6.3
知っているが実施していない	16.0	20.2
知らなかった	21.7	20.1
無回答	5.3	4.7



■東京消防庁が発信する建物の安全・安心情報について

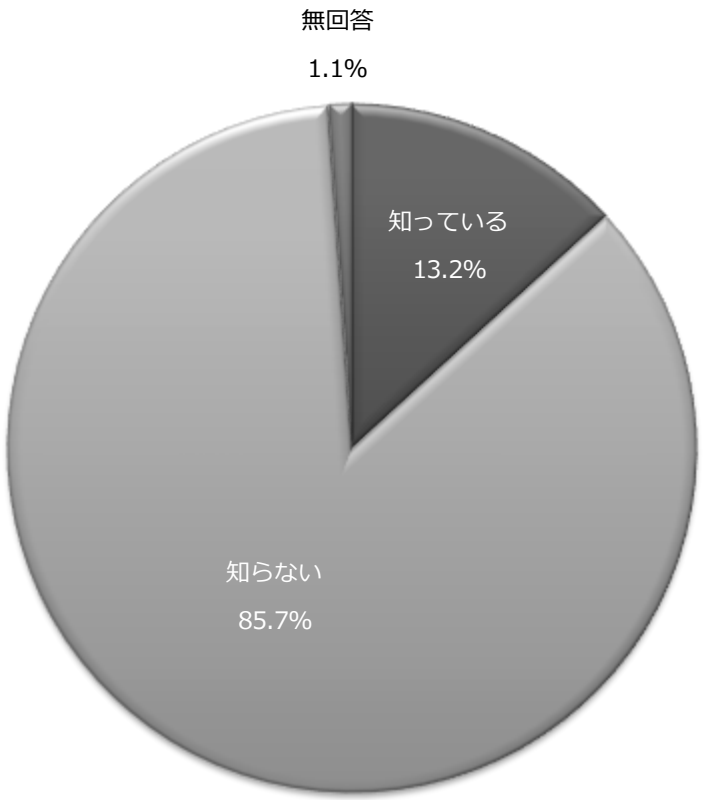
Q２１　あなたは、建物が防火に関して優良であることの証である「優マーク（優良防火対象物認定証）」を知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

	件　数	割合(%)
知っている	512	31.1
知らない	1,118	68.0
無回答	14	0.9
全　　体	1,644	100.0



Q２２　あなたは、消防関係法令に違反する建物が公表されていることを知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。

	件　数	割合(%)
知っている	217	13.2
知らない	1,409	85.7
無回答	18	1.1
全　　体	1,644	100.0



Ｑ８　「＃７１１９」についてのご意見、ご要望 …… ９０６件

内容	件数
認知度が低い、もう少し広めた方が良いと思います。	245
良いシステムで、助かりました。安心しました。	160
システムは知っているが、未経験の為分かりません。	87
利用すべき時が来たら検討、または利用したいと思います。	64
覚えにくいし、すぐ頭に浮かばないと思います。	63
緊急時、迷った時にはやはり「119」で救急車を呼ぶと思います。	25
親切で、親身になって、適切なアドバイスをしてほしいです。	17
＃7119と119の違い、内容が分かりずらいです。	16
相談したところで、適切な病院を紹介してくれるか心配。	16
繋がらない、繋がるまで時間がかかります。	15
相談する間の異変等、危険にあったら本当に困ります。判断基準があると良い。	11
マニュアル通りだけではなく、状況に応じた対応をしてくれるとありがたいです。	8
迷える状況なら、直接病院へ行くか、相談できると思います。	4
その他	175
	906

Ｑ１１　救急車を有効に運用するための「救急搬送トリアージ」制度 …… ９４０件

内容	推進すべきである	推進すべきではない	どちらともいえない	無回答	計
必要としている人（緊急性の高い人）の利用を妨げないようにするため	264	—	3	—	267
安易な利用を抑制するため	160	3	3	—	166
救急車の合理的、効率的な運用のため	106	1	3	—	110
判断の基準や正確さに疑問、不安があるから	15	14	74	—	103
気持ちを汲んで欲しい、不安を取り除いて欲しい	5	8	29	—	42
年齢を考慮する等、柔軟な判断が求められる	8	1	27	—	36
救急車の適正な利用を促す啓発活動・指導をしてほしい	31	—	3	—	34
緊急性がないと判断した場合の対応について考えて欲しい（近隣の病院の紹介等）	27	—	7	—	34
救急車や人員、病院の数には限りがあるから	31	—	—	—	31
救急車を有料化すべき	12	1	2	1	16
本人の同意があれば問題はない	12	—	—	—	12
税金の無駄遣いを減らすため	9	—	—	—	9
救急車の到着前に判断ができたら良い	5	—	2	1	8
その他	29	—	15	—	44
特になし／わからない	10	—	17	1	28
	724	28	185	3	940